



藍の国
とくしま

Ai no kuni TOKUSHIMA
徳島コンベンションサポートブック



Ai no kuni TOKUSHIMA

徳島コンベンションサポートブック

Ai no kuni
TOKUSHIMA
CONTENTS



04-07
ぞめきの町

徳島を象徴する芸能文化や景観
静かな町の熱い魂に触れる



08-09
鳴門の渦潮

大自然の驚異に大感動！
スペクタクルショーを体験する



10-13
ゆったりと秘境旅

初めてののに懐かしい
気持ちがほっこり温まる場所



14-17
四国の右下を冒険する

絶景、奇景のため息
シャッターチャンス連続



18-21
同行二人 四国遍路

四国霊場の発心の道場でミニ巡礼
お大師様の心に身を委ねる



22-25
藍を極める

徳島の繁栄を支えた藍文化と出会う
誇りある歴史と人々の暮らし



26-29
徳島 麺紀行

四国三郎 吉野川に沿って
風土が磨いた多彩な麺を訪ねる



30-31
アウトドア天国

アクティブな徳島にドキドキ
身も心も楽しみは尽きない



32-33
藍の国 漫遊マップ



34-37
おすすめ観光モデルコース



水床湾(海陽町)

CONVENTION in
TOKUSHIMA
CONTENTS

38-39

ゴルフ場の紹介
産業・体験観光の紹介

40-41

心に残る記念品をご用意

42-45

食材宝庫徳島のおもてなし
美味三昧
徳島の幸を凝縮した
お弁当のいろいろ

46-47

コンベンション開催支援のご案内

48-49

徳島県内の宿泊収容者数
ユニークなレセプション会場

50-51

市中心部のコンベンション施設
徳島県へのアクセス

52-55

アスティとくしまの会場施設紹介
様々な会場レイアウト

ようこそ 藍の国 徳島へ

古代、粟がよく実ったことから粟の国、転じて阿波国といわれるようになった徳島県。周囲を瀬戸内海・紀伊水道・太平洋が囲む県土には、霊峰剣山が天高くそびえ、四国三郎吉野川が東西を横断しています。

澄んだ青い空、蒼く透き通った海、そして碧い山。たとえば、そこは深く切れ込んだ溪谷と翡翠色の川面が輝く大歩危小歩危。あるいは引き込まれそうな青が描く大自然の驚異、鳴門の渦潮。はたまた群青色の山また山が連なる秘境、祖谷。そして紺碧の海に世界一のサンゴの花咲く牟岐大島。徳島は、どこまで行っても青の世界が広がります。なにしろ、ここは世界に名だたる藍の故郷なのだから。

江戸時代、徳島は質量とも最高峰の藍の産地として栄華を極め、「阿波二十五万石、藍五十万石」と謳われました。阿波おどりや阿波人形浄瑠璃、情緒あふれるうだつの町並みなど、徳島ならではの文化がこの頃に一斉に花開いたのも、藍あればこそ。

明治時代に日本を訪れた欧米人は、暮らしに溢れる藍を見てその神秘性を称賛し、ジャパンプルーと名付けました。藍は、まさに日本人の心の色。それを育んだのが、徳島なのです。自然も、文化も、歴史も、グルメも、藍の国 徳島のおもてなしをご堪能ください。



同じ阿呆なら踊らにやそん(損)、そん(損)

普段の徳島しか知らない者にとって、初夏から盛夏に向けての徳島は異質としか言いようがない。八月十二日から十五日に行われる阿波おどりを控えて、町中がざわめき、浮かれ、熱を帯びるのだ。一年間、溜まっていたエネルギーが一気に噴出するかのようになり、屋外練習場に鉦や太鼓、三味線が響き渡り、祭りの予感に湧き上がる。

阿波おどりは、十六世紀末頃、農漁村で行われていた盆踊りから発生。藍や塩で蓄えた巨万の富が、踊りを年々豪華に賑々しくしていったといわれている。

踊りは「連」というグループ単位。ぞめきと呼ばれる二拍子のリズムと、代表的なお囃子「よしこの」節にのせて踊るのが基本だ。優美であてやかな女踊り、力強く豪快な男踊り、そのほかコミカルなやつこ踊りや、団扇や扇を取り入れた踊りなど、連ごとに趣向を凝らした踊りを披露する。

阿波おどり本番。町の中心部の六か所の演舞場にはひな壇状の棧敷が設けられ、「踊る阿呆」と「見る阿呆」が集結する。「ヤットサー、ヤットヤット」の甲高い合いの手がさらに興奮をかきたてる。隊列を組み、時には輪になって、約十万人の踊り子が全精力を傾けて四日間を踊り抜くのである。

阿波おどり



約四百有余年前、吉野川の中州に発展した徳島。
 藍や塩で巨万の富を蓄えた城下では、庶民が芸事にいそしみ、阿波おどりや人形浄瑠璃に熱中した。その伝統はいまだ醒めず、普段はひっそりと穏やかな町や人が、こと、芸能にかけては熱く昂ぶる。

徳島では阿波おどりの軽快な三味線の音色や、派手で華やかなことを「ぞめき」というが、まさくに徳島の魂がそこにある。

ぞめきの町

特集

幕末の徳島藩士で絵師の吉成菴亭(1807~69年)が描いた「阿波盆踊図屏風」(個人蔵)。江戸時代の阿波おどりの様子を伝える貴重な作品。
 六曲一双 吉成菴亭 筆 紙本着色 各172.8×367.5 西野金陵株式会社 西野武明氏 蔵





眉山山頂から望む徳島市街と紀伊水道

ぞめきの町のシンボルは、名水の宝庫

眉山の隠れた魅力をもう一つ。美しい水の風景とともに、眉山はおいしい湧水の宝庫でもあるのだ。蜂須賀家御用達の錦竜水をはじめ、春日水、青龍水など、ミネラル分の豊富な眉山湧水群が、昔も今も市民の喉を潤す。



眉山

どの方向から眺めても眉の姿に見えることからその名がついたといわれる眉山。「眉の如雲居に見ゆる 阿波の山かけて ごと舟泊知らずも」

標高二九〇メートルのやさしい山容は万葉集にも詠まれ、徳島のシンボルとして愛されてきた。阿波おどり会館に設けられた眉山ロープウェイ山麓駅から、山頂まで六分。展望台からは徳島の町並みや市街地を流れる新町川はもちろん、海に流れ込む吉野川、大鳴門橋、瀬戸内海、遙か彼方には淡路島、紀州の山々を望むことができる。



徳島市の中心部は新町川と助任川に囲まれた中洲で、瓢箪のような形であることから「ひょうたん島」と呼ばれている。両国橋北詰発着のひょうたん島クルーズは1周25分で、水都徳島の魅力が楽しめる。



犬飼農村舞台

阿波っ子を惹きつけて止まない人形芝居

阿波人形浄瑠璃

芸どころといわれる徳島で、阿波おどりに劣らない人気を誇るのが、阿波人形浄瑠璃だ。十六世紀末頃、阿波人形浄瑠璃は徳島城下に広まり、県内にはたくさんのお家騒動を題材に生まれた「傾城阿波の鳴門」。

農民たちの熱狂的な支持と蜂須賀家の庇護によって、地域に根差し深く浸透していった阿波人形浄瑠璃。現存する農村舞台では、今なお地元の人たちによって人形浄瑠璃芝居が行われている。人気が高い演目は、近松半二の傑作で徳島藩のお家騒動を題材に生まれた「傾城阿波の鳴門」。

物語のモデルとなった板東十郎兵衛は地元の庄屋で、その屋敷跡が阿波十郎兵衛屋敷として開放されている。館内では再現した農村舞台で人形浄瑠璃が毎日行われるほか、人形浄瑠璃に使用される木偶人形や資料を展示している。





鳴門の渦潮

うずしお

徳島県鳴門市と兵庫県の淡路島南西部との間に横たわる、鳴門海峡。イタリアのメッシーナ海峡、カナダのセイモア海峡と並び世界三大潮流と言われる鳴門の渦潮の舞台が、ここだ。

次から次に表れては消える渦潮は、直径十五メートル以上。轟音を立て時速二十キロの速さで潮が渦巻き、中心へと引き込むかのよう。地球の息吹を感じさせる自然の驚異に、言葉を失う。その迫力を味わえるのは、実際に目にした者だけだ。

地球のメカニズムと地形が生んだ神秘

鳴門海峡は幅わずか一四〇メートル。瀬戸内海と太平洋の潮の干満によって、狭い海峡には勢いよく水が流れ込み、速い潮流が発生。加えて、海底の複雑な地形も影響し、無数の渦が生まれる。

渦潮は、潮流に沿って右側には右巻き、左側には左巻きの渦を作り、交錯しながら成長。轟音とともに紀伊水道・播磨灘へ流れ消えていく。この音から鳴門（鳴る瀬戸）の名が生まれたと言われている。

いつでも渦潮が見られるわけではない

渦潮の見ごろは、一日二回ずつある満潮と干潮の前後約一時間半。しかも、ひとつの渦が海面に表れているのは、わずか数十秒しかない。渦潮見物には潮見表を見て計画を立てることが大事だ。

より大きくてダイナミックな渦潮を見るには、最も干満差が激しくなる春と秋の大潮がおすすめ。最大規模二十メートル以上に達することもあり、その大きさは世界でも屈指といわれている。特に、三月下旬から四月下旬がベストシーズン。



海のスペクタクルショーをどこで見るか

鳴門海峡を望む鳴門公園に行くと、何通りもの渦潮の楽しみ方ができる。

大鳴門橋遊歩道「渦の道」は、鳴門海峡に架かる大鳴門橋の橋桁内（車道の下）に造られた、長さ四五〇メートルの海上遊歩道。遊歩道の先端には、四十五メートルの高さからガラス床越しに鳴門海峡の潮流と渦潮が見える展望室が設けられ、大自然の神秘を体験。さらに大鳴門橋架橋記念館エディでは、二七〇インチの大画面に映し出される渦潮の水中の様子など、驚異の映像が臨場感たっぷりに迫ってくる。

しかし、ハイライトは、何とんでも海上からの観潮。飛沫がかかりそうなほど渦潮に大接近する高速小型観潮船や、渦潮の真上まで進む大型観潮船、水中の様子も見える小型水中観潮船から見る大迫力の景観に、昂ぶる気持ちは抑えきれない。



大鳴門橋 橋桁内の遊歩道



ガラス床の眼下に広がる渦潮



渦潮の間近に迫る、迫力満点の観潮船

大歩危峡
二億年前の結晶片岩を浸食して造り上げた大歩危小歩危。奇妙な地名は、急峻で大股で歩いても小股で歩いても危ないからだとか、断崖を意味する古語「ほき、ほけ」に由来するなど、諸説ある。



過酷さゆえの絶景、大歩危小歩危

国道三十二号を高知方面へ。祖谷口あたりから急に空が狭くなったように思えたのは、のしかかるように深く切れ込んだV字谷のせいだった。さつきまで悠然と流れていた川幅は狭まり、翡翠色の淵と激流が繰り返される。吉野川観光のハイライト、大歩危・小歩危だ。大歩危峡には、約五キロメートルにわたって青色の奇岩巨岩が連なる。新緑の間から鮮やかなツツジの花が顔をのぞかせる陽春、両岸が紅

葉に縁どられる錦秋は、また格別。さらに下流三キロメートルにある小歩危峡では、龍がのたうつように蛇行する急流が、岩を穿つ。付近は知る人ぞ知るラフティングの好ポイントでもある。こんな剥き出しの自然のさらに奥に、人々の営みがあるとは想像し難しい。だが、折重なる山々や急峻な崖、引き込まれるように深い淵を右に左に見ながら、山道は続く。のどかさとは無縁の過酷な環境を地元

そこは日本昔話の舞台。いや、もつともつと遠い時代に迷い込んだかのようだ…。
徳島市から秘境祖谷地方を目指し、吉野川とほぼ並行して走るJR徳島線で四国山地の最深部へ。車窓からは時折、清流吉野川が見えるが、それはまだ前座。阿波池田駅で土讃線に乗り換えた直後から、眺望は絶景へと変わる。いよいよ秘境への入り口だ。

ゆつたりと
秘境
NISHIWA-kankoken
area of OBOKE & IYA
旅



人々は妖怪に見立て、危険な場所への立ち入りを戒め、自然を畏怖した。山の民の生きる知恵が、この地に泣き爺をはじめ数々の妖怪伝説を生んだといわれている。

ボンネットバス
レトロなボンネットバス型の観光バスが、阿波池田バスターミナルから大歩危、かずら橋、祖谷溪など、秘境を約五時間かけて巡る(要予約)。



小便小僧
祖谷川を見下ろす二〇〇メートルの断崖に立つ小便小僧の像。目もくらむこの場所で、かつて地元の子供達や旅人が度胸試しをしたといふ。



川下り
清冽な水と川風を間近に感じながら、谷底から眺める溪谷美は迫力満点。大歩危峡のなかでも最も美しいとされる約一、五キロメートルを、約三十分をかけて観光遊覧船が往復する。



上ノ字溪谷
ガイドブック「日本観光ミニシヨラン」二つ星を獲得した西祖谷。大きく蛇行した祖谷川が「ひ」の字を描く。

平家哀話が今に息づく土地

すでに川筋は本流吉野川から離れ、支流の祖谷川を辿っている。一帯は平家落人の里、祖谷である。

伝承によると、一一八五年屋島の戦いに敗れた平国盛は安徳天皇を奉じ、手勢百余騎を率いてこの地に辿り着き、祖谷を永住の地と定めた。命からがらの逃避行の末路とはいえ、華やかな都の暮らしから一転、ひっそりと息を詰めて山奥に潜んだ。彼らの失意を支えたのは、平家再興の夢ではないだろうか。

最も祖谷らしい風景の一つ、東祖谷の二重かずら橋は、平家一族が決起する日に備えて、武芸の訓練をする馬場に通うために架けられた橋といわれている。かずらで編まれたのは、追手が来たときにいつでも切り落とせるようにという配慮だった。しかし、その夢は叶えられないまま、橋だけが何度も架け替えられ、今に伝わっている。

祖谷の人々にとって、平家の悲話は決して伝説ではない。平国盛

手植えの杉の古木が今なお茂り、天皇が装束を掛けた「装束石」、鉾を立てかけた「鉾立て石」が残り、平家の赤旗や名刀も受け継がれているのである。



天空へと続く里山風景

うねうねと曲がりくねった山道から、さらに毛細血管のように延びた道が、山間の小さな集落に通じている。だが、標高一五〇〇メートルを超える山々の間を縫う道からは、行く手が想像できない。

突然、視界が開けた。そこに見えたのは、思いもよらない壮大な天空集落であった。

標高差三九〇メートルの南向きの急斜面にへばりつくように約七十軒の民家が集まる落合集落だ。建物の多くは江戸中期から後期にかけて建てられ、切り開いた斜面に石を積み、家や畑を築いたという。途方もない労力をかけた汗の結晶は、二〇〇五年重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

ここが秘境旅の終着地。最果てと思われた地は、じんわりと温かく懐かしかった。これが日本の原風景というのだろうか。



上／平家屋敷阿佐家
幼い安徳天皇を連れた平国盛一行が、ひっそりと隠れ住んだという祖谷地方。山の中には、国盛の子孫が住む平家屋敷や平家再興を願って馬の訓練をしたという平家の馬場、国盛が鉾を治めたと伝わる鉾神社などが点在する。

右／奥祖谷 重かずら橋
祖谷川の清流と原生林に囲まれ、長さ四十二メートルの男橋と、二十メートルの女橋の二本があり、別名夫婦橋。橋の隙間からは谷底まで見通せ、風が吹けばゆらり。隣接する「野猿」と呼ばれる人カロープウェイで渓谷を渡ることもできる。

下／そば畑
ほとんどが急峻な産地の祖谷。稲作には不向きだった反面、そばづくりに最適な土地だった。朝晩の寒暖差が、濃厚で粘り強く、滋味深いそばの味を育てた。



祖谷の心を節に乗せて

いや(祖谷)に言わずに 又来てたもれよ
手打ちそばなど しんぜやすよ

地元で伝わる粉ひき歌が、そば打ち小屋に朗々と響く。バックコーラスはせせらぎの音と野鳥のさえずりだけ…。歌うのは東祖谷在住で古式祖谷そばの伝承者の都築麗子さん。平家伝説の案内人にして、地元で伝わる民謡の名手。

秘境の村は民謡の里でもある。それは、十月の祖谷平家まつりで催される粉ひき節日本一大会の盛況ぶりからもうかがえる。昔、そば粉を引くのは女性の夜なべ仕事で、睡眠と闘うために百人百様の歌詞と節回しが生まれたのだとか。そんな労働歌としての背景は差し置き、しばし、この風流に身をゆだねようではないか。

都築麗子さん



秘境旅 二つのくつろぎ方

秘境のいで湯でまったり

深山幽谷に立ち上る温泉の湯気が、風情たっぷり。大歩危(単純硫黄泉)、祖谷(アルカリ性単純硫黄温泉)、新祖谷(単純硫黄泉)に源泉を持つ大歩危・祖谷温泉郷。平家の隠れ里にふさわしい深い渓谷に包まれ、秘湯ムード満点の個性あふれる宿が点在する。



天空の郷で茅葺き民家に泊まる

こんなところに泊まって見たかった、という人続出。山の急斜面に広がる日本の原風景、落合集落に伝わる茅葺きの古民家を再生した宿泊施設。モダンで使い勝手の良い設備のもと、憧れの古民家暮らしが手軽に体験できる。



上／東祖谷

歴史民俗資料館
祖谷に伝わる平家ゆかりの地を紹介するほか、祖谷の暮らしにまつわる品々を展示する。

右／落合集落

東祖谷のほぼ中央、祖谷川と落合集落の合流点より山の斜面にそって広がる集落。対岸の展望所から一望できる。



下／奥祖谷周遊観光モノレール
延長四、六キロメートルを七十分で一周。最頂標高三三八〇メートルで森林浴を楽しむ一人乗りモノレール。

四国の右下を冒険する

四 国の右下、すなわち徳島県の東南部の市町は遠い。県西部の大歩危や小歩危も遠い。なぜだろう。四国の他の三県は県庁所在地がほぼ県の中央にあるが、徳島市は県のかなり北東に寄っている。徳島市が起点になることが多い阿波の旅では、どうしてもそんな錯覚に陥ってしまう。しかし、室戸阿南海岸国立公園沿いの「四国の右下」は宝の山、足を踏み入れると旅人の目をくぎ付けにするような魅力が詰まっている。

エリアは阿南市あたりから南と分類できる。国道五十五号を南下していると、まず見えてくるのが阿波の松島ともたたえられる橘湾。突然現れる藍色の海に誰もが目を奪われる。海の色が違う。まさに「藍の国」のイメージが浮き彫りになる。アカウミガメの産卵で知られる大浜海岸、切り立つ断崖絶壁が続く千羽海崖、群生するサンゴ礁が見える水床湾など、藍色の海と亜熱帯の動植物が織りなす景観美は飽きることがない。

少し内陸に入ると、一変山深い趣に包まれる。そこには四国霊場でも難所として知られる第二十番鶴林寺や第二十一番太龍寺が鎮座し、大ウナギの生息する川や、四国一の大滝轟の滝がある。魅力が尽きない「四国の右下」。その一端を堪能してみよう。

adventurous SPOT

南阿波サンライン

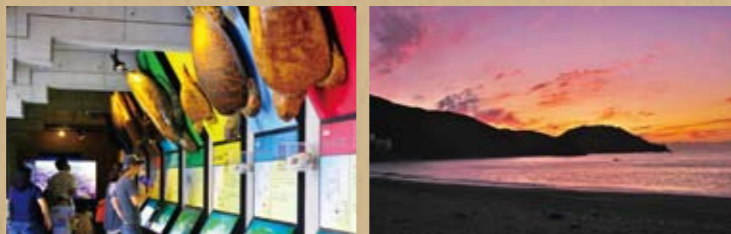
美波町と牟岐町を結ぶ約17kmの観光道路。路線名は徳島県道147号日和佐牟岐線である。眼下に美しい海岸線と雄大な太平洋(室戸阿南海岸国立公園)を一望できる。海岸は格好の釣り場でもあり、チヌ、グレ、メバル、ブリ、イシダイなど四季折々の磯釣りが楽しめる。



日和佐うみがめ博物館「カレッタ」と大浜海岸

「自然と人間の共生」をテーマにした博物館。世界のウミガメ展示やクイズコーナー、屋外飼育プールなどがある。昭和25年生まれの世界最高齢のオスのウミガメ浜太郎もいる。えさやりの時間のウミガメの食欲に驚くことだろう。

博物館の目の前に広がる大浜海岸は、ウミガメの産卵地として国の天然記念物に指定されている。延長500mの砂浜で、海中に大きい岩礁や障害物がないことからウミガメの産卵地となり、室戸阿南海岸国立公園の一つの主役でもある。



adventurous SPOT

千羽海崖とうみがめマリクルーズ



せんば かいがい
そそり立つ大海崖 千羽海崖

室

戸阿南海岸国立公園の特別保護区に指定された千羽海崖は、リアス式海岸に切り立つ高さ二百五十メートルにも及ぶ断崖絶壁が二キロメートルにわたって続いている。美波町と牟岐町の海岸線を結ぶ南阿波サンラインからも見ることができ、圧巻は「うみがめマリクルーズ」の漁船に乗って海から絶壁を見上げる約十三キロメートル、四十分のツアーである。

出港は四国霊場第二十三番薬王寺のシンボル瑜祇塔ゆぎとうが見える日和佐港から。海を知り尽くした漁師が操る漁船は快調に進む。海崖を至近距離から見ることができ、船内からは見上げるような断崖絶壁は息をのむほどの迫力だ。ところどころにできた洞窟に波の猛威を感じさせられる。中には「通り岩」と呼ばれる船が通り抜けられるほど大きな穴のあいた岩も。漁師の腕の見せどころではあるが、波の高い日は断念したほうが賢明だ。

絶壁にはウバメガシやクロマツがへばりつくように生えている。厳しい環境と強風で大きくはならない。最高峰の千羽が岳(標高二四五二m)も直下から眺めることができる。まるで、六十階建ての高層ビルが海から生えたような迫力である。

クルーズの最後はウミガメが上陸する大浜海岸を見ながら徳島県最大の洞窟えびす洞へ。標高五十二メートルの岩山に直径三十メートル、奥行四十メートルの穴がポツカリ。大きい漁船も悠々中で回転出来るほどだ。そこには手つかずどころか手をつけられないほどの自然があふれていた。



adventure in
MINAMI AWA

adventure in
MINAMI AWA

四国の右下を冒険する

海底はサンゴがいっぱい 竹ヶ島海中公園

徳

徳島の島では最も南にある竹ヶ島。竹ヶ島海中公園では海中観光船ブルーマリンの船底にある展望室から海底のサンゴや熱帯魚を見ることが出来る。ここまで来ると亜熱帯、海の様相もカラフルになる。横たわっている大きなナマコも見え、残念ながら食べられない種類だとか。

ブルーマリンの船旅は約四十分。最初のうちは甲板から室戸阿南海岸国定公園の美しいリアス式海岸を愛でながら進む。高知県域になる甲浦港も間近に見える。乗組員のDJ風の説明を聞きながら、海の絶景と海底の神秘の二つが楽しめる仕掛けだ。シーカヤックも人気だ。群生するサンゴや熱帯魚が美しい竹ヶ島コースと小島が点在して奇岩も多い水床湾コースがある。初心者でもインスタラクターがいるから安心。一人乗り、二人乗りはお好みで。太平洋にプカプカ浮かび透明な海底を眺めていると大自然の息吹が伝わってくるようだ。

「四国の右下」は、豊かな自然や深い歴史に包まれた癒やしのユートピア。いつも、抜けるような青空とマリブルーに輝く太平洋が訪れる人々を待っている。



室戸阿南海岸国定公園の沖合にある牟岐大島の美しい海では、色とりどりのサンゴや魚が楽しめる。

adventurous SPOT

貝の資料館 モラスコむぎ

資料館は巻貝や二枚貝をイメージしたデザイン。館内では世界の珍しい貝を所蔵し、約100点の貝を見ることができます。目の前に広がる海の絶景も楽しめる。



入札して魚が買える!

「ホテルリビエラしきい」と「ふれあいの宿 遊遊NASA」は、漁協の入札権を持っており、宿泊者は市場の競りに参加して新鮮な魚を市価の半値程度で買うことができる。宅配による自宅への持ち帰りサービスもある。



厄除けの寺 薬王寺

四

国霊場二十三番札所 医王山薬王寺。空海が弘仁六年(八二五年)に薬師如来を刻んで本尊にしたと伝わる。「おやくっさん」の愛称で親しまれ、全国的にも厄除けの寺として知られている。

境内には三十三段の「女厄坂」、四十二段の「男厄坂」があり本堂に続く。本堂から右上手に見える瑜祇塔へは六十一段の「還暦の厄坂」が導いてくれる。参拝者たちは石段の一段一段に二円玉を置いて厄除けを祈願するのが習わしになっている。司馬遼太郎も『空海の風景』の中で薬王寺を描き、「石段を厄年の男女が織るよう上下しており、登る者は一段のぼるごとに一枚ずつ二円アルミ硬貨をおとしてゆく」とのくだりが石碑になっている。

円柱形の瑜祇塔は昭和三十九年の四国霊場開創二五〇年を記念して建てられたもので、薬王寺のシンボルにもなっている。日和佐の市街地からも鮮やかに見え、この塔が視界に入ってくると遍路たちは発心の道場の打ち納めが近いことを知る。瑜祇塔には展望台があり室戸阿南国定公園が見える。

厄除けの願をかけた遍路たちは、ここで土佐修行の道場への一路平安を祈る。



adventurous SPOT

轟の滝

清流海部川の上流にとどろく四国一の大滝、その名も「轟の滝」。日本の滝百選の一つで本滝とも呼ばれる轟の滝の上流には大小さまざまな滝が連続し、総称して「轟九十九滝」の名がある。二重の滝、横見の滝、丸淵滝などを経由して、最上部の鍋割りの滝まで約1.5km、往復2時間程度でマイナスイオンたっぷりの滝巡りが楽しめる。毎年11月第2日曜日には秋祭りが行われ、クライマックスは神輿の滝渡御、白装束の男たちに担がれた神輿が本滝の滝つぼに入っていく。



南阿波井

南阿波の1市4町が地産地消にこだわって開発した「南阿波井」。平成25年3月現在で39種類の「南阿波井」ができ上がった。「南阿波井」の定義は、徳島県南産の米を使う、メイン食材に県南で水揚げされた魚介類、県南で育まれた肉類、県南で生産された農産物を使い、付け合わせ一品にも県南産の食材を使用すること、と地産地消を徹底している。「南阿波井」の顔ともなる「統一井」もデビューして人気を呼んでいる。こちらは上記の条件に県南の代表的食材である「阿波尾鶏」と「アオリイカ」を使用することが決まりで「南阿波右上がり井」のネーミングで売り出し中だ。南阿波の味の思い出には同じく地産地消にこだわった「とこぶし井」や「阿波尾鶏の親子井」なども味わってみたい。





「一番さん」と呼ばれる第1番霊山寺。



山あり、谷ありの四国霊場ながら、最初は平坦な道が続く。お遍路さんがリズムをつかむまで、お大師様が助走区間をしつらえたかのような遍路道である。第一番霊山寺から第二番極楽寺までは二キロメートル、二番から三番金泉寺までは三キロメートル、三番から四番大日寺までは七キロメートル、四番から五番地藏寺までは二キロメートルといった具合で足取りも軽やかになる。四国三郎吉野川より北側の一番から十番切幡寺までは歩いても距離は三十一キロメートルである。



上／第8番熊谷寺の紅葉。
左／第2番極楽寺の長命杉。



空海と発心の道場

祈りの道が始まる。四国八十八ヶ所霊場の第一番から第二十三番までがある阿波の国は、発心の道場と呼ばれる。およそ二四〇〇キロメートルにも及ぶ長い道のりを踏み出す勇氣や悟りを求める心を持ち、足場を固める場所という意味合いだろう。

に、などなど。それこそ百人いれば百の理由があるかもしれない。
さまざま巡礼者が一様に感動するのは四国の人々のお接待の心。東京オリンピック招致成功のキーワードにもなった「おもてなし」の気持ちが四国全域にあふれている。「お遍路さん」の言葉にも尊敬の念がこもるのは、遍路が常にお大師様と一緒に修行しながら歩いているという「同行二人」の信仰心を感じているからであろうか。常にお大師様と一緒に歩いているのは、遍路にとっても二度、三度と歩き続ける大きな力になっている。

左/第11番藤井寺。鐘つき堂の天井格子に残る絵。



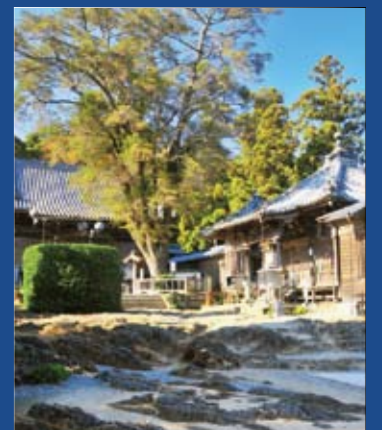
ここを過ぎると発心の道場も、二十番平等寺と二十三番薬王寺を残すのみである。平等寺から薬王寺へは、きれいな歩き遍路道が残っている。三ヶ月の予定で歩き遍路に挑むオーストラリアの女性にもここで出会った。

薬王寺は全国的にも知られる厄除けの寺で、阿波の霊場を締めくくる荘厳な雰囲気を持っている。阿波二国の二十三霊場は、四国霊場全体の縮図のようでもあり、どこか人生模様にも似ている。発心の道場を打ち終えて道行きに思いをはせる遍路たちには、修行の道場土佐の国が待ち構えている。室戸岬の第二十四番最御崎寺までは七十五キロメートルの長丁場である。



遍路道を歩くオーストラリアの女性。3ヶ月かけて全行程を歩き通した。

ところがここから風景は一変する。吉野川を南に渡ると十一番藤井寺がある。穏やかな遍路道はここまで。藤井寺から十二番焼山寺までは険しい遍路道が今も残り、歩くと六時間も八時間とも。車で巡礼できるようなになった今でも、四国霊場最大の難所とも言われている。険しい焼山寺を下りるとやがて徳島市へ。徳島市内では住宅街に五ヶ寺が連なり、小松島市内の二ヶ寺を過ぎると、再び山深い霊場に差し掛かる。二十番鶴林寺、二十一番大龍寺は焼山寺とともに二に焼山、二にお鶴、三に太龍」と並び称される難所である。いわゆる「遍路ころがし」という言葉が実感できるような道筋である。



第14番常楽寺の露出した大岩盤が波のようにうねる「流水岩の庭」。今も風雨で形が少しずつ変化している。本堂前の高木はアララギの木。



山岳霊場の趣も濃い第21番太龍寺。

参拝の作法

一、山門(仁王門)

山門(仁王門)前で合掌し、一礼して境内へ入る。帰りも忘れないうちにしましょう。
(※お大師さんのお出迎えに対する礼儀)なお、境内は左側通行を心がけてください。



①山門

二、手水場

手水場にて、手を洗い、口をすすいで身を清める。口をすすぐことは、身体の外と内を清める行為であります。



②手水場

三、鐘楼堂

鐘楼堂で鐘をゆっくりと1度つく。
※お参りを済ませた後で鐘をついてはいけません。
※鐘をつくことができない所もあるので、自由につける所のみとしてください。
※朝早くや遅い時間など、近隣の迷惑になる場合は避けてください。



③鐘楼堂

四、本堂(金堂)

納札箱に納札を納め、灯明(献灯)1本、線香(献香)3本をあげる。その後、お賽銭を納めて合掌し、お経(読経、写経等)を奉納する。



④本堂

五、大師堂

大師堂にて、本堂と同じ手順で参拝する。



⑤大師堂

六、納経所

納経所にて、納経帳等にお納経(朱印)を受けてください。
※本堂、大師堂の他にもお堂等があれば、先にそちらに参拝してください。



⑥納経所



徳島で栽培されている藍植物は、タデ科小上粉。豊富な藍植物の中で、最も阿波藍の製造に適している。



藍の不思議に 釘付けになる

Ai no kuni TOKUSHIMA

藍住町藍の館。
「うわあー!」

藍染め体験に訪れた女性グループから感嘆の声が漏れた。初めてその瞬間に立ち会った、誰しも魔法のように思うだろう。

藍甕あいがめの中の黒ずんだ藍液に浸した白い布は、それだけでは発色しない。最初は茶色っぽく変色し、空気に触れるとくすんだ濃い緑色に。さらに時間を経て乾いてくると、鮮やかな青が現れた。そして何度も染め上げを繰り返すことで、より青く変化する。

中国の思想家である荀子は「青は藍より出でて藍より青し」と書いた。「青い色は藍から取るが、出来上がった青は、原料の藍よりももっと濃い青だ」という藍の神秘が言わしめた言葉だ。

そもそも原料のタデアイは緑色なのに、なぜ青い色ができるのか。藍は、時を積み重ねて二層美しく変貌するといふのも、なかなか魅惑的ではないか。



藍の専門博物館、藍の館。建物は往時の隆盛を物語る藍商の屋敷で、藍の栽培から加工までを展示。藍染体験もできる。



A148 color chart

藍液に付けて最初に発色するのが「かめのぞき」、以後「そらいろ」「あさぎ」「花いろ」「なんど」「藍」「紺」「褐色」「留紺」の順に色が濃くなっていく。阿波藍で染めた色は濃くなるほど赤みを帯びる。



日本人の魂の色、 ジャパンプルー

Ai no kuni TOKUSHIMA

明治初期、日本を訪れた或るイギリス人は、衣類や調度品、寝具など藍染めに囲まれて暮らす人々を見て、その美しい彩りを「ジャパンプルー」という言葉で表現した。

藍色と二言でいうが、藍に由来する色は多彩で、ほのかに青みを帯びた白、藍白から、黒っぽい留紺まで、藍四十八色と呼ばれる色がある。たとえば黒に見えるほど深い藍色は「褐色（かちいろ）」と呼ばれるが、「勝色」につながることから、縁起を担いで鏡下は藍で染められ、武家の祝賀にも藍染が用いられた。その一方、安価でどんな繊維も染められるため、庶民から将軍まであらゆる階層の人々が愛用し、次第に藍は日本人の心の奥深く染み込んでいった。

藍を極める

Ai no kuni TOKUSHIMA



吉野川は、藍の川である。

一般の藍が地藍と呼ばれるのに対して、吉野川の肥沃な土地で栽培した藍にだけ与えられた称号、本藍。その品質において最高峰に位置づけられ、量においても日本で一である。藍の原料となるタデアイの栽培から染料の生産、さらに染色までがこの流域で行われ、人々の暮らしを紡いできた。この川こそが、世界に誇るジャパンプルー＝藍の故郷なのだ。



阿波に咲いた 千年の色、藍

Ai no kuni TOKUSHIMA

五千年以上の歴史を秘めた藍染が、日本に伝わったのは飛鳥時代。伝承によると、徳島では平安時代初期に藍染が行われたという。

阿波藍(徳島で製造される天然藍染料、スクモのこと)が本格的に市場で脚光を浴びるようになったのは、江戸時代の中頃。綿の普及とともに藍の需要が飛躍的に伸びる中で、阿波の北方といわれる吉野川流域の農村が、日本最大の藍作地帯として名を馳せた。

なぜ、徳島が藍なのか。そこにはこの地ならではのお国事情があった。

吉野川氾濫の歴史が、 阿波藍を育んだ。

Ai no kuni TOKUSHIMA

徳島の東西を横切る吉野川は、毎年氾濫を繰り返す暴れ川で、稲刈り目前に台風が壊滅的な洪水をもたらすことから、流域は不毛の地と思われていた。ところが、梅雨前とお盆に収穫する藍は、水害の影響を受けにくい。加えて、洪水は肥沃な土を運び込み、土地枯らしといわれる藍の連作を可能にしたのだ。

膨大な利益を見込んだ徳島藩は、藍商や藍師と呼ばれる加工業者の強力な後ろ盾と

阿波藍の灯を 守る藍師

Ai no kuni TOKUSHIMA

現在、阿波藍は藍の製造販売を担うわずか五人の藍師(全国の藍師は七人)によって支えられている。

藍師の仕事は過酷を極める。手間のかかる藍の栽培を経て、炎天下に刈り取ったタデアイの葉を天日干しし、アンモニア臭と湯気が立ち上る蒸し暑い作業場で葉藍の発酵を促し、染料となるすくもを作る。作業は一日二十時間労働が約四ヶ月続き、「阿波の北方起き上がりこぼし 寝たと思たら早起きた」という唄がその厳しさを今に伝えている。種まきからおよそ三百日。藍染のいのちとも言われるすくもがようやく誕生する。

藍染の原料であるタデアイが、二人の藍師の機転と農家の主婦の勇気で絶滅の危機から救われたことを知る人は少ない。第二次世界大戦中、食糧増産のために徳島でも藍の栽培が禁止され、日本

固有の一年生栽培品種であるタデアイは、絶えそうになった。そこで一人の藍師が農家の主婦に栽培を依頼。主婦は命がけて藍を作り続けて種を守り抜いた。それがなかったら阿波藍の復活は難しかったかもしれない。



化学藍の普及により徳島県下の天然藍の栽培面積は、最盛期の2%に満たない。しかし再び高い品質が注目されるようになり、支持を集めている。

なつて、藍の製造技術の改良に努め品質向上を図った。その結果、一七〇〇年代には阿波藍が市場をほぼ独占するまでになった。まさに、官民一体となつて取り組んだ一大プロジェクトだったのである。

豪勢な藍商の 面影を残す脇町

Ai no kuni TOKUSHIMA

吉野川の河口から約四〇キロ。静かな山間に本瓦葺、大壁造りの重厚な家々が四三〇メートルの道の両側に軒を連ねる脇町(美馬市)がある。時代から取り残されたように、ひっそりと佇むこの町こそ、現存する資料で判明している、徳島最古の藍の栽培地である。時とともに藍作は下流域一帯に広がり、染め上がりが美しく色が落ちにくい阿波藍は、他の産地の地藍よりもはるかな高値で取引されたという。

脇町では百を超える藍商人が栄華を極め、家の袖壁に「うだつ」を張出し、財力と家運隆盛を競い合ったという。古き良き時代の面影を色濃く残す南町通りから、路地を抜けて川に向かうと、氾濫に備えた高い石垣と石段、小さな船着き場の跡が見える。水運に恵まれ、藍の積出し港としても栄えた往時の名残である。有力藍商の中には自前の帆船を所有し、ここから徳島へ、さらに大阪や兵庫、岡山に向けて阿波藍が出荷された。

エメラルド色の吉野川の水面を、白い帆を立てた幾艘もの船が走る…。そんな輝かしい風景が、この町にたくさんさんの夢をもたらした日々があったのだ。



右/藍商の屋敷からは直接、舟が出せるように船着き場があった。現在の川筋はさらに南に下ったところ。

左/たびたび繰り返された吉野川の氾濫に備え、藍商の屋敷は全体を高く地上げして、その周りには高い石垣を築いていた。

藍と阿波おどりの 深い関係

Ai no kuni TOKUSHIMA

ひととき暑い徳島の夏を、さらに熱くする阿波おどり。阿波藍によってもたらされた隆盛が育てた祭と言える。

元禄期(二六八八―一七〇四年)に、阿波藍の売れ行きが急増すると、徳島藩は大いに潤い、町民文化が花開いた。その影響は死者を弔うためのものであった盆踊りさえも娯楽化し、禁止令が出るほど盛大に行われた。それが今に伝わる阿波おどりのルーツと言われている。

踊り手は自前の本藍染めのゆかたや手ぬぐいを、まもっていたに違いない。江戸時代には最も安価で庶民的な染色であり、汗をかき盆踊りには色あせしにくいことも好都合であった。化学染料が大半となり祭り衣装がユニフォーム化した後も、あえて本藍染めにこだわる連は少なくない。もちろん、見物人も。阿波おどりを控えた六月から七月は、県内の染め工房は活況と盛る。藍が、徳島の夏をいきいきと染め上げる。



徳島



麺紀行

徳島に行く

麺に出会う機会が多い。

しかもラーメン、うどん、

そうめん、そば、と麺好きには

嬉しい多彩さ。

聞けば、吉野川の伏流水が

麺を美味しく仕上げるからだとか。

おいしい麺を求める旅は、

はからずも吉野川を遡る

旅となった。

いざ、麺好きを魅了する旅へ

蜂須賀家のお膝元、徳島藩二十五万七千石の城下町として発達した徳島市。四国最大の川、吉野川河口の中洲に位置し、町の中には数多の河川が網の目のように流れ、名水と呼ばれる湧水も多い。いつしか水都徳島と呼ばれるようになった。よい水が潤沢にあるところには美味が育つ。

直感を信じた旅の始まりは、徳島ラーメン。九十年代後半、空前のラーメンブームに沸いた時に、ご当地ラーメンの火付け役として登場してからの快進撃は、ラーメン通の語り草だ。聞くところによると、戦後間もなく徳島にあった日本ハムの前身、「徳島ハム」の工場から安価な豚骨が大量に出回ったことが、こ

てりした味わいの徳島ラーメン誕生の背景にあるとか。これを食べない手はないが、個性的な味がよりどりみどりで、ここで食べるか決め難い。

渦潮の町・鳴門にもユニークなうどんを見つけた。鳴ちゆるうどんと呼ばれるそれは、うどんであつてうどんに非ず。コシの強い讃岐うどんと対極にある柔らかさと優しい味わいで、数百年にわたって愛されてきた郷土料理だという。

旧吉野川河口に位置する鳴門市から吉野川と並行して延びる撫養街道を西進する。淡路島を介した近畿との交通が至便な撫養は、奈良・平安時代から開かれた港町であり、撫養の塩田で生産される塩、吉野川の上流域で産出され



大歩危峡
吉野川上流部を構成する阿波青石と呼ばれる緑泥片岩によって、川の水の色は目にも鮮やかな翡翠色となる。この美しき水が美味を育んだ。

Travel of Tokushima-noodle

る木材、中下流域で栽培される藍、煙草等の積み出しで賑わった。風雅な名前の道沿いには、四国八十八ヶ所一番札所の靈山寺や藍作で栄えた藍住町や板野町、さらに西に向かえば吉野川下流の景観が美しい第十の堰など見所が多い。

道は阿波市へと入ってきた。目指すは、土成町御門。珍しい地名は、約八百年前に土御門上皇が配流により、土佐を経て当地にお成りになったことに由来するとい。

この地に江戸時代末期から伝わる、たらいうどんが自当だ。読んで字の如し。だが、単に大きなたらいうどんを浮かべているだけではない。川魚から取った出しの味が異彩を放つ、個性的な味わいは癖になること請け合い。

すでにあたりは吉野川の中流域。二七〇ヘクタールにも及ぶ、壮大な竹林が両岸を覆っている。ひとたび大雨が降ると大洪水を引き起こす吉野川から集落や農地を守るため、藩政時代に徳島藩が水害防備林として竹を植えた名残である。

ぎ町のある美馬、三好地区はかつて良質な小麦の生産量が多く、そうめんづくりを発展させた。現在、町内では三十七業者が乾麺を製造している。

そしていよいよこの旅のクライマックス、祖谷そばの登場だ。源流に近づき、次第に深山幽谷の気配が漂ってくる。かつて平家の落人が隠れ住んだという祖谷には、素朴な味わいの祖谷そばがひっそりと時を忘れたように残されている。あまりに過酷な風土だったため、満足に育つものがそばくらいしかなかったというが、滋味深さは今や貴重品である。それを静かな山里で味わう至福……。吉野川が育てた麺文化は、多彩で奥が深い。



そばの粉引
殻つきのそばの実を少しずつ石臼に入れ、反時計回りに回す。粉引はそばの味を左右する重要な作業。



そうめん干し
剣山から吹き降る冷たく乾燥した風は、素麺の味を磨いた。現在は室内で乾燥機を使って行うのが一般的。(つるぎ町たききは製麺にて)

たらいを囲んで独特の味と香りを堪能

たらいうどん

吉野川河口から約20km。国道318号沿いに支流の宮川内谷川を遡り、山も谷も深まったところに、土御門上皇ゆかりの土成町御門がある。ひと山越えれば、もう讃岐である。

この地の名物として江戸末期から伝わるのが、たらいうどんだ。土成はお米が育ちにくい土地柄で、古くから小麦が栽培され、手打ちうどんが日常的に作られてきた。一方、林業が盛んだったこの地区では、山仕事をする人たちが仕

事納めに河原にかまどを築いて、うどんを茹でた。そして湯だめしたうどんの入った大きなたらいを数人で囲み、溪流に棲むジンソク(ゴリ)という川魚でとった独特のつけ汁にくぐらせて食べるのが、いつしか習わしとなったという。

現在、この地区には11軒のたらいうどんを食べさせる店が軒を連ねている。卵と山芋をつなぎにした麺はやや太くて濃い塩味で、コシが強い。鯉節やイリコのだしとは明らかに違う、いまや幻ともいえるジンソクの深い味わいが麺によく絡む。大きなたらいにたっぷりのゆで汁とともに入れられたうどんは、豪快で宴の主役にぴったり。たかがうどんと侮ることなかれ。



徳島麺MAP



Travel of Tokushima-noodle



三好市祖谷地方

隠れ里に受け継がれる在来種のそば

祖谷そば

三好市街地より吉野川支流の祖谷川に沿って走る祖谷街道を南に入ると、平家の隠れ家として知られる日本三大秘境の一つ、祖谷渓がある。身を隠した平家落人が主食の代用にしたのが、そばだった。

祖谷は、標高が高く急斜面に畑が造られ、日照時間が短く、朝晩の寒暖差も大きい。しかし、この過酷さが、良質なそばを生んだ。この地に伝わる在来種のそばの実は、小粒で丸みがあり、粘りがある。石臼で挽くと、力強いそばの香気が立つ。打ったそばは、艶やかに黒い。そば粉の割合が高いため、うどんのように太めで短く、ぶつぶつと切れやすい特徴を持つ。

祖谷そばは、祖谷地方の祝宴には欠かせない料理で、昔からそば打ちができない娘は嫁にいけないといわれるほど、地元暮らしに密着。平家伝説とともに伝わる風雅な味である。

在来種ならではの独特の風味と素朴な舌触りのそばは、大歩危祖谷温泉郷周辺のそば専門店や食堂などで味わうことができる。また付近にはそば打ち体験ができる店もあり、吉野川本支流の豊かな水に支えられて、そば文化は今に息づいている。



つるぎ町半田

極上の食感と喉越しを楽しむ太幅麺

半田そうめん

剣山北麓、肩を寄せ合う山間の町に、江戸時代中期に生まれた半田そうめん。吉野川で物資の運搬を担っていた平田船の船頭衆たちの手によって淡路、鳴門を経由して、半田に製法が伝わったと考えられている。18世紀半ばに著された「日本山海名物図会」には「又阿波路よりいつるも、名産なり、三輪におとらず」と記述がある。

清流吉野川の伏流水や、高峰・剣山から吹き下りる「寒風剣山おろし」など、風土によって味は磨かれ、手延べの技と複雑で繊細な工程にじっくりと時間をかけることで、美味を極めた。残念ながら、町内に半田そうめんの看板を掲げる食堂はないが、道の駅などで通年、食べることができる。

独特の麺の太さが小麦の風味を生かし、甘味を引き出す。初めて見た人は太さに驚き、これをそうめんだと認められない。冷麦にないコシ、うどんにない抜群の喉越し、もちっとした食感、噛みしめるごとに広がるふくよかな香り…。そうめん的一种というよりも、半田そうめんという別物である、と結論付けざるを得ない。

つるぎ町 半田



徳島市周辺

地元で愛され、「そば」の代名詞的存在

徳島ラーメン

店の外まで漂ってくる食欲をそそる芳醇な香りが、そこが徳島ラーメンの店であることを教えてくれる。徳島市を中心に鳴門市、小松島市にも店は広がり、ラーメン専門店に言うに及ばず、喫茶店や食堂でも味わえる店が増えてきた。が、メニューにはほとんどその文字はない。それもそのはずで、地元での呼び名は「中華そば」あるいは「そば」。店は気取りがなく、庶民的だ。

スープは豚骨ベース。色は白濁系から茶系、清湯系まで店によって千差万別で、見た目も風味も個性的だ。そして一番の特徴が、独特のトッピング。ほとんどの店がチャーシューではなく、甘辛い醤油味で煮込んだ豚バラ肉を使う。極めつけは、生卵。全体にからめるとまるですきやきのような味わいで、濃い目の醤油味を卵がまろやかに仕上げしてくれる。

店内を見渡すと、老若男女を問わずほとんどの客がラーメンをおかずに、はふはふとご飯をかき込んでいる。いわゆるラーメンライスが定番というのも、この味ならうなずける。店の佇まい同様、実用的でカンと腹にたまるガテン系ソウルフードだ。



タレの味がしっかりとしみこむまで煮込んだ豚バラ肉。



鳴門市全域

独創的な食感が癖になる郷土料理

鳴ちゆるうどん

従来のうどんのイメージとあまりにもかけ離れているので、まずは、特徴と食感をご説明しよう。

麺は、コシのない細麺。細さ太さ・長さ短さ・厚さ薄さは不揃いで、一見「失敗?」と疑いたくなるほど。実はこれこそが、鳴ちゆるうどんの最大の特徴であり、魅力なのだ。この麺にカツオブシや鳴門の昆布、いりこでとったあっさり醤油味の黄金に輝くダシを絡ませると、ちゆるちゆるとうどんが喉を滑り、後を引くおいしさにはまる。基本の具材はねぎと刻み揚げのみといったシンプルだ。

一説によると、鳴ちゆるうどんは、鳴門の塩田で働く人たちが、過酷な仕事で食欲がないときでも食べやすいようにと、数百年前から受け継がれてきた郷土料理「鳴門うどん」に由来。最近になって地元の写真家が、鳴門の「鳴」にちゆるちゆる食べる音を組み合わせ命名し、改めて脚光を浴びるようになった。

市内には創業百年以上の老舗専門店もあり、伝統の味を楽しむことができる。異なった食感が楽しめる上に、体にもやさしい。一杯400円前後という手ごろさがまたよい。



牟岐町 海陽町ほか
スキューバダイビング Scuba diving
 世界最大級の千年サンゴ(ハマサンゴ)をはじめ40種ものサンゴや、色とりどりの熱帯魚が群れ泳ぐ様子が見える。



三好市
ラフティング Rafting
 大歩危小歩危の渓谷美を愉しみながら、日本屈指の激流吉野川を下るスリル満点のひと時。ガイドが同行するので、初心者でも安心して楽しめる。



牟岐町 海陽町ほか
サーフィン Surfing
 世界的に有名なカルフポイントを有しサーファーズパラダイスとも言われる県南には、日本屈指のサーフポイントが点在。



海陽町 美波町ほか
シーカヤック Sea kayaking
 海で使うカヤックのこと。千羽海崖など変化に富んだ多くの入り江や大小の島々・奇岩を、海上から眺めるのは最高。



美馬市 三好市 勝浦町
ハングラライダー、パラグラライダー Hang glider & Paraglider
 県西部には高低差1,000mもの国内有数スカイスports空域があり、指導者の元でダイナミックな空の旅が体感できる。



剣山周辺 など
トレッキング Trekking
 西日本第二の高峰剣山(1955m)を中心に、高知県にまたがる三嶺や水苔の群生が美しい山犬嶽、秋には一面のススキ原が見事な塩塚高原などが有名。



徳島の自然を遊び尽くせ! アウトドア 天国

瀬戸内海、紀伊水道、太平洋の3つの海で囲まれた徳島県。多彩な造礁サンゴやクオリティの高い波に恵まれているほか、8割を山地が占める県土には、吉野川や那賀川など、河川が深い渓谷を穿ち、変化に富んだ地形となっている。それだけに自然の魅力を満喫するアウトドアスポーツが盛んで、バラエティ豊か。海で、川で、山で、自然と戯れよう!

THE AWA'S OUTDOOR



藍の国 漫遊マップ

本誌でご紹介した観光スポット・施設などを掲載した県内地図です。
徳島での滞在をよりお楽しみいただくためにお役立てください。

CONVENTION in TOKUSHIMA

「四国の右下」絶景の海岸美と海鮮グルメ1日コースまたは1泊2日コース

県南部の見どころがいっぱい。産直市場でお買物を愉しみ、自慢の海鮮料理に舌鼓。厄除けの薬王寺やウミガメが産卵に訪れる大浜海岸のほか、千羽海崖の絶景をめぐる。

行程

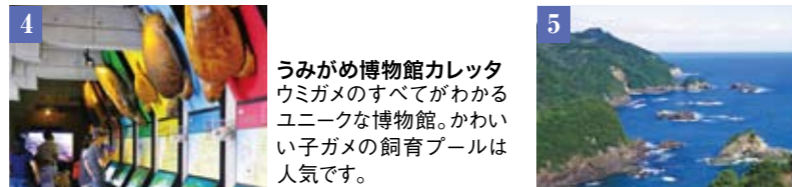
1日目



1 小松島 (みはらしの丘 あいさい広場) 地元でとれた新鮮野菜や特産物を買求める市場です。

2 23番札所 薬王寺 厄除けにご利益があることで有名な徳島県最南の札所です。

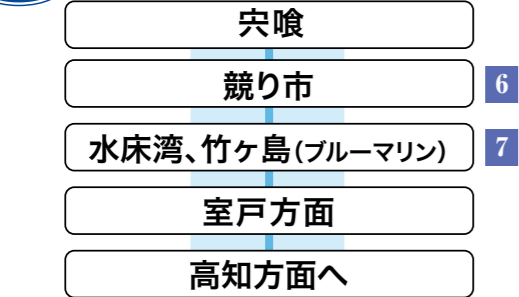
3 大浜海岸 約700mほどの海岸で初夏から夏頃にかけてアカウミガメが産卵に上陸します。



4 うみがめ博物館カレッタ ウミガメのすべてがわかるユニークな博物館。かわいい子ガメの飼育プールは人気です。

5 南阿波サンライン展望 日和佐から牟岐町に向かう18kmのドライブウェイ。起伏に富んだ海岸線の眺めは絶景です。

2日目



6 競り市 「ホテルリビエラらしく」と「ふれあいの宿 遊遊NASA」の宿泊者は、穴喰漁港の市場で競りに参加できます。

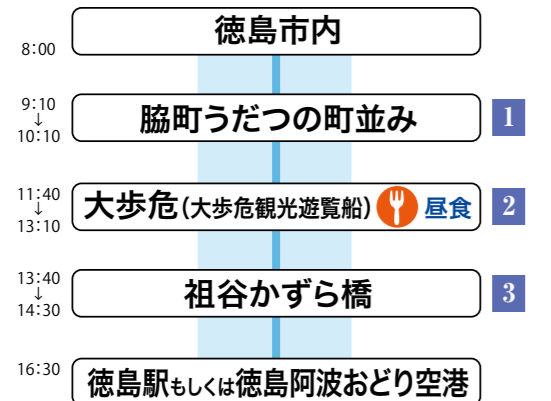
7 海中観光船ブルーマリン 室戸阿南海岸国立公園の美しい海を堪能できる海中観光船。外の景色はもちろん、美しいサンゴや熱帯魚なども鑑賞できます。

8 水床湾 変化に富んだリアス式海岸と紺碧の海、緑の松におおわれた島々は室戸阿南海岸国立公園のナンバーワンポイントです。

憧れの秘境大歩危・祖谷ハイライト周遊1日コース

古き良き時代の面影を残す、うだつの町並みを散策。秘境ムードに浸りながら、吉野川の激流が造った大歩危峡を遊覧船から観光し、さらに祖谷のかずら橋を訪れます。

行程



1 脇町うだつの町並み

2 大歩危観光遊覧船 大迫力の断崖絶壁と清流の色合いは絶景です。

3 祖谷のかずら橋 祖谷川にかかるシロクチカズラで編まれた吊り橋です。全長45m、幅2m、水面からの高さは14m。

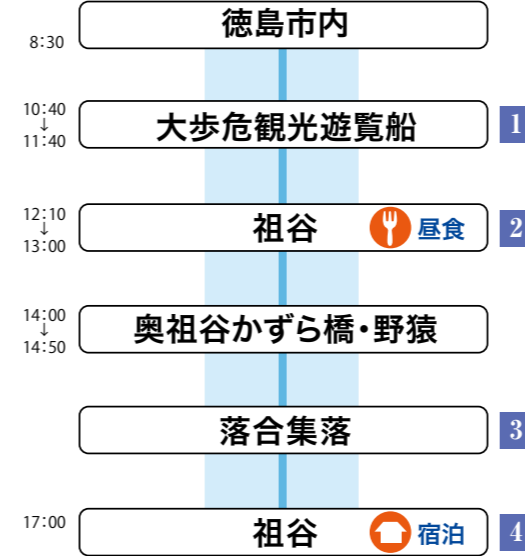
天空集落や奥祖谷も巡って秘境大歩危・祖谷を堪能2日コース

大歩危峡での遊覧船乗船や祖谷のかずら橋観光はもちろん、さらに秘境の奥深くまで足を延ばし、奥祖谷の二重かずら橋や天空に築かれた落合集落なども訪れます。

行程

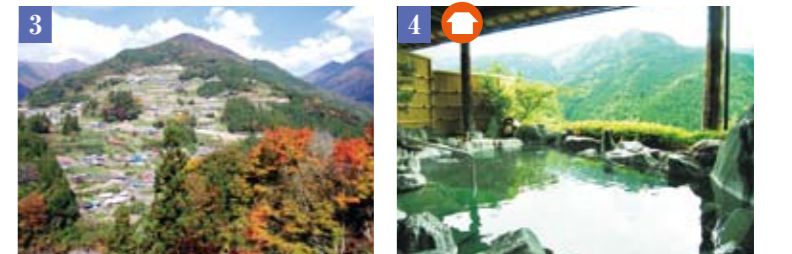
※道路事情のため、中型バス以下でご利用ください。

1日目



1 大歩危観光遊覧船 大歩危峡の奇岩怪石と四季折々の木々や花の彩りを遊覧船で堪能します。

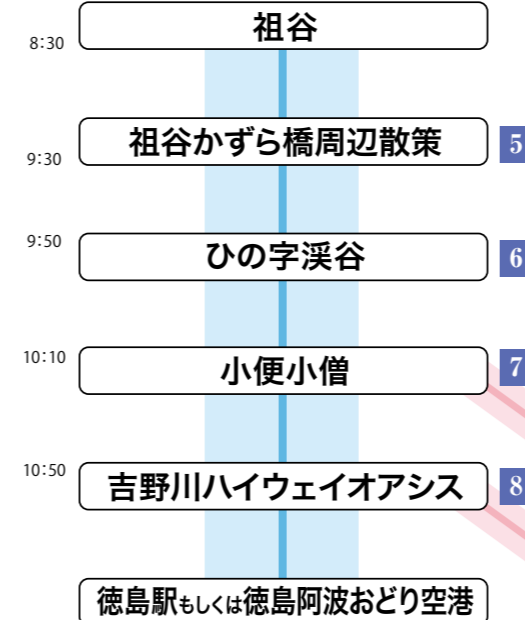
2 昼食/祖谷そばや川魚料理などを美味しくいただけます。



3 落合集落 奥祖谷に拓かれた天空の集落。平家伝説の伝わる山郷です。

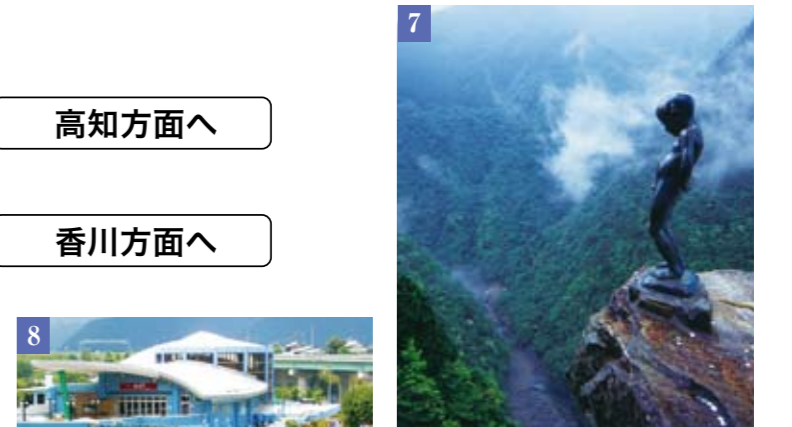
4 大歩危祖谷温泉郷 祖谷大歩危の深山幽谷に源泉を持つ温泉郷。平家の隠れ里に立ち上る湯けむりは秘境ムード満点です。

2日目



5 祖谷かずら橋

6 ひの字溪谷 山間の流れがひの字を描く祖谷溪は、徳島県西部の絶景ポイントです。



7 小便小僧 祖谷溪を望む小便小僧。四国山地を横断する切り立った深い溪谷と四季折々の色彩は絶景です。

8 吉野川ハイウェイオアシス 温泉施設や地場料理、川めぐりや阿波おどりの上演を楽しめるレジャー施設です。

観光 おすすめ モデルコース



鳴門：島田島

本文 P4-7 **ぞめきの町コース**

本場阿波おどり鑑賞と夜の徳島を楽しむコース

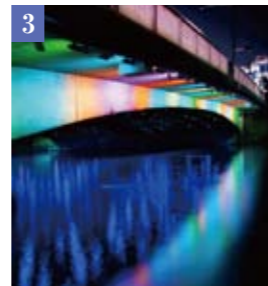
コンベンションを終えたくつろぎのひと時を旅情あふれる徳島の夜の街でゆったりお過ごしください。

行程

- 徳島市内(夕食・市内散策ほか)
- 眉山山頂(眉山ロープウェイ) 1
- 阿波おどりホール(阿波おどり会館内) 2
- 徳島市内散策(新町川LED) 3
- 徳島市内 宿泊



阿波おどりホール 徳島の夏の祭典阿波おどりを年間を通し上演しています。また、阿波っ子の指導であなたも阿波おどりを踊ることができます。
平日 14:00～・15:00～・16:00～
土・日・祝 11:00～・14:00～・15:00～
・16:00～(上演時間 40分)
夜の阿波おどり上演 毎日(20:00～20:50)



「水の都・徳島」のシンボル新町川の川沿いの水際公園は、夜はLEDのイルミネーションやフットライトが噴水や木々の緑を照らし出し、ロマンティックな雰囲気を醸し出します。

本文 P08-09 **鳴門の渦潮コース**

感動！陶板名画の鑑賞と鳴門の渦潮1日コース

世界の名画を色褪せることのない陶板で再現した大塚国際美術館で、見て触れて名画をじっくり堪能。また観潮船に乗ってダイナミックな鳴門の渦潮を間近で見ます。



大塚国際美術館 世界の名画を原寸大の陶板画で再現した美術館です。



鳴門の渦潮 時速20km、最大直径20mに及ぶ世界三大潮流がつくり出す渦潮です。



昼食／鯛料理
※写真はイメージです。

行程

- 徳島市内
- 大塚国際美術館 1
- 鳴門：鯛料理 昼食
- 渦潮観潮 2
- 鳴門公園散策
- 徳島駅もしくは徳島阿波おどり空港

本文 P18-21 **四国遍路コース**

発心の道場周遊と鳴門の驚異に出会う1日コース

四国遍路の出発点、四国霊場一番札所霊山寺から三番札所金泉寺までをめぐり、弘法大師の心に触れる一日。さらに迫力満点の鳴門の渦潮も観光します。

行程

- 徳島市内
- 8:00 ↓ 8:40 ↓ 9:10 **1番札所 霊山寺(りょうぜんじ)** 1
- 9:20 ↓ 9:50 **2番札所 極楽寺(ごくらくじ)** 2
- 10:15 ↓ 10:40 **3番札所 金泉寺(こんせんじ)** 3
- 11:10 ↓ 12:10 **渦の道または渦潮観潮**
- 12:30 ↓ 13:30 **鳴門(鯛料理) 昼食** 4
- 15:00 **徳島駅もしくは徳島阿波おどり空港**



1番札所 霊山寺 ここから巡礼の第1歩を踏み出す。見どころは600年近い歴史を持つ多宝塔や庭園です。



2番札所 極楽寺 境内には、仏様の足型を型どった仏足石や弘法大師が植えたといわれる長命杉などがあります。



3番札所 金泉寺 往時をしのばせる井戸と弁慶の石が今も残ります。



鳴門 鯛料理 鳴門の海でとれたての身のしまった鳴門鯛は絶品です。
※写真はイメージです。

本文 P22-25 **藍を極めるコース**

美しきうだつの町並みと藍の国の魅力のすべて1日コース

からくり人形の実演や藍染め体験、阿波踊りをお楽しみいただき、藍で栄えた脇町でうだつの町並みを散策。藍の国徳島ならではの魅力を凝縮しました。

行程

- 徳島市内
- 9:00 ↓ 9:30 ↓ 10:20 **藍の館(藍染体験)** 1
- 10:40 ↓ 11:30 **阿波十郎兵衛屋敷** 2
- 阿波人形浄瑠璃上演(11:00～11:30)
- 12:30 ↓ 13:50 **脇町うだつの町並み** 3
- 14:50 ↓ 16:00 **阿波おどり会館**
- 阿波おどり上演(15:00～15:40)
- 徳島駅もしくは徳島阿波おどり空港



藍住町歴史館「藍の館」 阿波藍の歴史や製造工程を資料や展示物で紹介。藍染め体験もできます。



阿波十郎兵衛屋敷 重要無形民俗文化財「阿波人形浄瑠璃」を上演しています。



脇町うだつの町並み 阿波藍で栄えた豪商たちが競ってあげた「うだつ」が並ぶ町並み。国指定重要伝統的建造物群保存地区になっています。



ゴルフ場の紹介

CONVENTION in TOKUSHIMA

温暖な気候の徳島は積雪の心配も少なく、美しい水や空気、ゆったりと流れる時間の中で、プレーをお楽しみください。



阿南カントリークラブ

[所在地] 徳島県阿南市橘町江ノ浦88番地 [電話] 0884-27-1814
[ヤード] PAR 72 (6,610ヤード) [ホール] 18

阿波の松島と呼ばれる橘湾を眼下に見下ろすシーサイドコース

コート・ベール徳島ゴルフクラブ

[所在地] 徳島県阿南市那賀川町みどり台1番地1 [電話] 0884-42-3441
[ヤード] PAR 72 (7,011ヤード) [ホール] 18

自然と人が共作した、戦略的かつ芸術的な18ホール

サンピアゴルフクラブ

[所在地] 徳島県徳島市入田町安都真215-1 [電話] 088-644-1100
[ヤード] PAR 72 (7,065ヤード) [ホール] 18

自然を生かした広大な舞台に、エキサイティングなコース設計

Jクラシックゴルフクラブ

[所在地] 徳島県阿波市土成町秋月176-1 [電話] 088-695-5215
[ヤード] PAR 72 (7,221ヤード) [ホール] 18

ジャンボ尾崎の設計監修によるチャレンジシャブルなゴルフコース。

タカガワ東徳島ゴルフ倶楽部

[所在地] 徳島県名西郡神山町阿野字歯ノ辻499番地 [電話] 088-678-0001
[ヤード] PAR 72 (7,010ヤード) [ホール] 18

四国屈指のゴルフ場。四季折々の景色を楽しみながらゴルフを満喫。

徳島ゴルフクラブ吉野川コース

[所在地] 徳島県徳島市北田宮2-13-32 [電話] 088-632-1026
[ヤード] PAR 70 (6,486ヤード) 0.5R×2 [ホール] 9

河川敷コース。吉野川右岸の河川敷に造成されたフラットなウォーキングコース。乗用カートも使用可

眉山カントリークラブ

[所在地] 徳島県徳島市加茂町東名東山99 [電話] 088-631-3063
[ヤード] PAR 70 (5,672ヤード) [ホール] 18

四国三郎の清流と、徳島平野を一望にのぞむ、緑豊かなコース

グランディ鳴門ゴルフクラブ36

[所在地] 徳島県鳴門市北灘町折野大川筋182 [電話] 088-682-0246
[ヤード] EAST:PAR 72、WEST:PAR 72 (EAST:7,052ヤード、WEST:7,070ヤード) [ホール] 36

ゴルファーのチャレンジスピリットをかき立てる爽快で豪快な36ホール

御所カントリークラブ

[所在地] 徳島県板野郡上板町引野字安楽寺谷90-10 [電話] 088-694-3135
[ヤード] PAR 107 (9,418ヤード) [ホール] 27

阿讃山脈の中腹に広がる高低差の大きい山岳コース

四国カントリークラブ穴吹コース

[所在地] 徳島県美馬市穴吹町穴吹岡ノ上200 [電話] 0883-52-3115
[ヤード] PAR 72 (6,732ヤード) [ホール] 18

自然を生かし、ゴルフの醍醐味を引き出す。18の個性を際立たせるグリーンが魅力です。

タカガワ西徳島ゴルフ倶楽部

[所在地] 徳島県阿波市阿波町北山10 [電話] 0883-35-5111
[ヤード] PAR 72 (6,810ヤード) [ホール] 18

阿讃山脈の山懐に展開する18ホールの丘陵コース。

徳島カントリークラブ月の宮コース

[所在地] 徳島県徳島市入田町月の宮227 [電話] 088-644-3636
[ヤード] PAR72 (6,800ヤード) [ホール] 18

鮎喰川の台高にある丘陵コースで比較的フラットなコース設計

鳴門カントリークラブ

[所在地] 徳島県鳴門市瀬戸町北泊字北泊529-1 [電話] 088-688-0111
[ヤード] PAR 72 (6,682ヤード) [ホール] 18

ゴルフをしながらして観光気分が味わえる海沿いの戦略ステージ。

レオマ高原ゴルフクラブ

[所在地] 徳島県三好市山城町大和川652 [電話] 0883-86-2900
[ヤード] PAR 72 (6,231ヤード) [ホール] 18

芸術性と戦略性を秘めた18ホールの見事なハーモニー。

産業・体験観光の紹介

CONVENTION in TOKUSHIMA

産業・体験観光のお問い合わせ (一財)徳島県観光協会 ☎088-652-8814

株式会社いろどりと上勝町の視察

映画「人生、いろどり」の題材にもなった葉っぱビジネスで全国から注和を集めた(株)いろどりや、ゼロ・ウエスト事業で知られる上勝町の各所を視察します。



徳島県立工業技術センター

徳島県立工業技術センターでは、LEDトータルサポート拠点として県内企業のLED製品開発を支援しています。その一環として、常設展示場において県内企業の技術力・商品力をPRするために、LED応用製品やものづくり技術の成果の展示をしています。



橘湾石炭火力発電所

発電所の実地見学。身近で遠い火力発電や、原子力発電の仕組みや利用方法について、模型パネルなどを見て説明を聞くことができます。



有限会社竹内園芸

新しい発想・試み・感性で飛躍し続ける農業界のパイオニア。年間生産本数全国トップクラス、1200種類の野菜苗及び花苗を扱っている。広大な敷地面積を誇る農場を見学できます。「苗梱包自動搬送システム」、「培養土自動ポットングマシン」等による生産の効率化、季節や天候などの自然条件に左右されず安定した高品質な苗を供給できる体制を整えています。



歴史と伝統の阿波和紙・藍染め大谷焼き体験から最新のLED製品開発まで徳島の誇る「技」を見学したり体験できます。

サテライトオフィスとアートプロジェクトの視察

徳島県神山町は徳島県のほぼ中央部に位置し、ITベンチャー企業の「サテライトオフィス」誘致や「ワークインレジデンス」による移住推進策、さらに「神山アーティスト・イン・レジデンス」に代表されるアートプロジェクト、神山塾などが全国的な注目を浴びています。



大塚製薬株式会社徳島板野工場

徳島板野工場は、医薬品工場として1999年にスタートしました。2008年からはSOYJOY、2012年にはソイカラも製造しています。「人と環境にやさしい工場、地域に開かれた工場」をテーマに自然林を残した敷地にビオトープも設置しています。



伝統工芸



手漉き和紙体験

阿波和紙の起源は、1300年ほど昔にさかのぼり、今もその技が伝えられています。伝統ある阿波和紙手漉き体験ができます。

【阿波和紙伝統産業会館】



大谷焼体験

大谷焼は「寝ろくろ」という独特の技法で知られ、国の伝統的工芸品にも指定された焼き物です。作陶や給付を体験できます。

【大谷焼陶業協会】

藍染め体験

阿波・徳島に繁栄をもたらした藍は、現在でも県内のいたる所で藍染め体験をすることができます。

【藍染工芸館 藍の館 古庄染工場 本藍染矢野工場 技の館】

心に残る記念品をご用意

CONVENTION in TOKUSHIMA

徳島の農産品・水産品



なると金時

砂地畑で栽培され、皮は鮮やかな紅色で、ホクホクとした自然の甘みが特徴です。ビタミンCやビタミンB1をはじめ、食物繊維が豊富な食材です。収穫時期は、さぐり掘りと言われ早掘りの7月から10月くらいまでで、出荷は周年です。



すだち

徳島を代表する特産物で、柑橘類の一種です。絞り汁を漬物や焼き魚にかけたり、スライスした実を日本酒や焼酎に浮かべたりとさまざまな利用法で楽しんでいます。また、すだち酢をはじめジャム、すだち味噌など様々な加工品に利用されています。



鳴門わかめ

鳴門の渦潮を生み出す激しい潮流で育った鳴門わかめは、シコシコとした歯ごたえと風味のよさが特長です。古くから徳島の特産品として、県民に愛されています。



徳島の地酒・「すだち」、「なると金時」を使ったお酒

阿波の地酒



芋焼酎

すだち酒・すだち酎

徳島には35の蔵元(清酒、焼酎、みりん)があり、それぞれ味わいのある酒をつくっています。緑深い四国山地や阿讃山脈から流れ出た水は、吉野川、勝浦川、那賀川などとなって豊かな流れとなります。その伏流水から採った仕込水と肥沃な土が育んだ米と静かな時を経て芳醇な阿波の酒となります。



徳島の伝統工芸



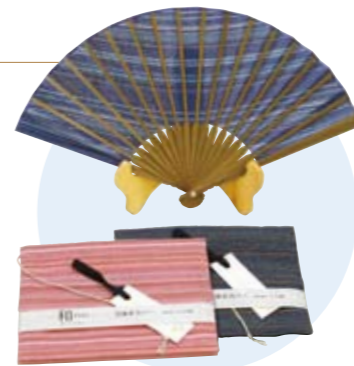
阿波和三盆糖

竹糖という品種のサトウキビを原料に伝統的手法で作られてきた数少ない国内産の砂糖です。

豊かな風味を持つ阿波和三盆糖は、全国の高級和菓子の甘味として欠かせない存在となっています。洋菓子や料理にも用途を広げています。

しじら織り

阿波しじら織りは明治時代の始めから作られ、シボという独特の凹凸は、縦糸と横糸の本数と組み合わせによる張力差によって出来てきます。肌触りがよく、軽くて着やすい綿織物で、細かなシボにより汗をかいても肌に張りつかず清涼感があり、夏の衣料として最適です。



竹人形

阿波おどりの威勢のいいお囃子が今にも聞こえてきそうな竹人形。県産の竹を使い、手作業で作られる人形は、ひとつひとつの動作や表情に特徴があり、阿波おどりの躍動感を見事に表現しています。



世界有数のLED先進地域「徳島」

徳島県は、20世紀中の開発は困難と言われていた高輝度青色LEDを世界で初めて製品化し、現在では白色LED生産量で世界一のシェアを誇るLED素子メーカーをはじめ、LEDを用いた様々な応用製品を開発するメーカーが県内外から100社以上集積する、世界有数の「LED先進地域」となっています。





阿波の鱧 はも

夏の食卓を彩る高級食材、鱧。特に関西では、京都の祇園祭や大阪の天神祭に欠かせない。実はその鱧の多くは、徳島産なのである。

鱧は、きめの細かい泥が堆積した底質を好み、その条件に適うのが吉野川や那賀川などが注ぎ込む紀伊水道の徳島県沖の海底。

河川からの栄養によって、エビやカニ、小魚などが豊富に育ち、それを餌に、皮や身に十分な旨みと適度な弾力のある、美味しい鱧が育つといわれている。

鱧の旬は6月から7月と、11月から12月の二度。上品な淡泊さを楽しむ夏の鱧だけでなく、秋から冬にかけて脂の乗った鱧も格別。500～600グラムが最も美味と言われている。料理は、お馴染みの湯引きや刺身、鱧ずし、鱧鍋、土瓶蒸しなど。抜群の鮮度と品質は、まさに地元ならではの至福だ。



上/鱧の湯引き 下/鱧のお吸い物

鳴門わかめ



徳島は、昔から天然わかめが豊富で、千年以上昔の文献にも、阿波の国の貢物としてわかめが記載されている。昭和33年から養殖に取り組み、本格化したのはその5年後。三陸に次ぐわかめの産地だけあって、養殖ロープの長さは四国一周するほど。

激しい潮流にもまれて育った鳴門わかめの特徴は、肉厚でしっかりとした歯応えと風味の良さ、鮮やかな緑色。保存性を高めおいしさを長持ちさせるため、生わかめを湯通した後、水で冷却し塩漬けする塩蔵わかめ、さらに水で洗った湯通し塩蔵わかめや、糸状に裂き乾燥させた鳴門糸わかめがある。

鳴門鯛 たい

鳴門海峡でもまれた真鯛は、鳴門鯛と呼ばれる一級品。タイ網による漁のほか、世界三大潮流といわれる鳴門海峡の渦潮の周辺では、「かんこ」と呼ばれる漁船で、1尾ずつ大切に釣り上げている。

潮流の速い海域で育った真鯛は筋肉が発達し、力瘤のように膨らんだ「鳴門骨」を持つ。体重1キログラムを超える真鯛の多くに見られる特徴で、これこそが鳴門海峡で育った証拠である。ぷりぷりとした歯応えと、色鮮やかさが際立つ鳴門鯛。特に産卵を控えた春には「桜鯛」、脂の乗った秋には「紅葉鯛」とも呼ばれ、これらの時期には一層美味しくなるといわれている。

真鯛は用途が幅広く捨てる場所がないといわれるが、特に頭と皮には濃い旨味があり、兜煮や皮つきの握りずしは絶品。



徳島の幸を凝縮したお弁当のいろいろ

CONVENTION in TOKUSHIMA

自慢の味覚がぎゅー。豊かな風土が育んだ新鮮な食材をお弁当にしました。素材の持ち味が生きる美味をご堪能ください。

地産弁当／遊山箱風弁当



地産弁当／1,000円(税込)
鳴門金時、竹ちくわ・鳴門わかめ等地産の食材を盛り沢山。ご飯をおかずパリエーション豊かに仕上げました。



遊山箱風弁当／2,000円(税込)

「遊山箱」とは、昭和40年頃、野山への行楽等に使用された特別な弁当箱のことです。小さな箱には、我が子の成長を願う親の思いが込められていました。

(株)ふくなが

[住 所] 徳島市北沖洲3丁目7-28-5 [電 話] 088-664-0032

阿波づくし弁当／鯛めし弁当



阿波づくし弁当／1,200円(税別)
松茂のレンコン、小松島のフィッシュカツ、すだち等阿波の食材を豊富に使った地元弁当です。



鯛めし弁当／1,200円(税別)

本場鳴門北灘より直接入荷した天然鳴門鯛を使用した鯛めしと阿波の食材を豊富に使ったおかずを組み合わせました。

(有)さわ

[住 所] 徳島市東沖洲1丁目1-5 [電 話] 088-636-0088

阿波名物弁当 阿波弁／すだちくん弁当



すだちくん弁当／1,080円(税込)

徳島の名産品がたくさん詰まったお弁当です。



阿波名物弁当 阿波弁／1,080円(税込)

阿波弁は、なると金時、フィッシュカツ、鳴門わかめなど徳島県の名産品を凝縮した、贅沢なお弁当です。「阿波の名産品は、どれもごっつい美味しいのでよまあいっぺん食べてみて」

エイブルフーズ

[住 所] 徳島市北沖洲2-8-35 [電 話] 088-664-8981



食材宝庫徳島のおもてなし

美味三昧

BIMIZANMAI



旅先の愉しみといえば、やはりその土地ならではの食材を使った料理。
温暖な気候と変化に富んだ自然の徳島では、バリエーション豊かな幸との出会いが待っている。

根菜王国、徳島のブランド野菜たち

主に鳴門市で栽培されるなると金時。海のミネラルをたっぷり含んだ砂地で栽培され、栗のようなほくほくした食感としっとりした甘さ、輝く黄金色が特徴。なかでも里浦町で栽培されている「里娘」はサツマイモのトップブランドとして有名。

吉野川下流域を中心に栽培され、全国第2位の収穫量を誇る徳島れんこん。独特の香りと透き通るような白さ、光沢、歯ざわりの良さが特徴。ほぼ通年収穫されるが、晩秋から冬に旬を迎え、中でも12月頃が最盛期で品質も最高といわれる。

徳島の新にんじん(春にんじん)の生産量は日

本一。吉野川下流域の藍住町や板野町で栽培されている。土の中の温度を上げて収穫時期を早める「トンネル栽培」を取り入れ大切に育てられたにんじんは、カロテンを多く含み甘くて柔らか。サラダやジュースなど、あえて生でおいしさを実感したい。旬は、3月中旬～6月上旬。



なると金時と野菜のせいろ蒸し



阿波尾鶏

あわおどり

徳島の鶏料理は、阿波尾鶏に極まる。焼いてよし、煮てよし、揚げてよし、炒めてよし。肉質の良さからプロから一般家庭まで引っ張りだこである。本領が発揮されるのは、もも肉のソテー。皮はパリッと身はしっとりジューシーと、なんとも理想的。また胸肉は、軽く塩漬けしスモークすると、豚肉のハムのような食感と深い味わいになる…。どんな調理方法でも、最大限に長所を発揮できるのだ。

実はこの阿波尾鶏、軍鶏系地鶏とブロイラーを交配した、徳島県産の肉用地鶏である。もともと、徳島は全国屈指のブロイラー生産県だったが、昭和53年から本格的にブランド鶏開発に着手。10年間改良を重ね、平成13年には念願のJASに認定されるまでに



なり、同16年には出荷数も200万羽を超えた。いまや全国一の生産量を誇るブランド鶏だ。

人気の秘密は、ぷりぷりと締まった肉質と、伝統的な地鶏に匹敵する歯応え、脂肪が少なくブロイラーを凌ぐ抜群のコクと旨味にある。それを裏付けるのが、旨味成分であるアスパラギン酸やグルタミン酸の豊富さ。さらに鮮度が長持ちし、冷凍・解凍による品質の劣化も少ない、と良いことづくめの。付け加えれば、名古屋コーチンや薩摩地鶏などと比べ価格もかなり抑えられている。

ちなみに「阿波尾鶏」というユニークなネーミングは、徳島らしいインパクトの強い名前を考えていた時、元気よく跳ねて喧嘩する様子がまるで踊っているようだったことに由来している。



阿波尾鶏もも肉のソテー

阿波牛

あわぎゅう

徳島の温暖な気候と豊かな自然のもとで育まれた黒毛和種「阿波牛」。肉質等級が4以上の血統明確な肉用牛で、約2,000頭が毎年出荷されている。

県内の肉用生産者の卓越した肥育技術により育てられ、脂肪の色合いやとろける様な霜降りの柔らかさと、口に広がる旨味が、市場で高く評価されている。和・洋いずれの料理も選ばない逸品である。





コンベンション 開催支援のご案内

CONVENTION in TOKUSHIMA

徳島での
コンベンション開催を
応援します

コンベンション開催支援について

お問い合わせ先 (一財)徳島県観光協会
〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示1-1 ☎088-652-8814

□主なサポートメニュー

会場、宿泊施設の紹介

開催の規模や内容に相応しい会議・レセプション・宿泊等の施設をご紹介します。主要なコンベンション施設を紹介した「徳島コンベンション施設ガイド」冊子もご提供いたします。

歓迎看板の提供

参加者を歓迎して開催ムードを高めるための歓迎看板を、徳島阿波おどり空港およびJR徳島駅に設置いたします。
※500名以上の参加がある全国規模のコンベンション、または国際的コンベンションが対象です。

関係機関との連絡調整

行政や関係機関への取り次ぎ調整などを行います。

関連事業者のご紹介

コンベンション開催のお手伝いをする様々な業種の賛助会員をご紹介します。

視察の支援

県内施設などを視察していただく際その調整・支援を行います。

関係資料のご提供

●コンgresバッグ(有料)

徳島をイメージしたイラストを施しており、A4版資料が入ります。

●徳島の文化・観光施設利用優待券

県内の主要な文化観光施設を紹介しており、利用優待券が付いています。

●その他の資料

観光パンフレット・マップやコンベンション用に作成した飲食ガイド・物産ガイドなど主催者や参加者の皆様に必要な資料をご提供いたします。

●徳島ならではのおもてなし●

阿波おどり



皆様と一緒に踊っていただけます。

約400有余年の歴史をもつ四国を代表する祭り「阿波おどり」をレセプション等のアトラクションにご利用いただくことができます。本場の阿波おどりを盛り込むことで、華やかで個性豊かな思い出深いコンベンションステージをご提供できます。

本場の阿波おどりをお楽しみください。

阿波人形浄瑠璃



「傾城阿波の鳴門」で感動の涙を。

徳島の歴史文化を代表する阿波人形浄瑠璃は、県内各地の神社の境内に建てられた農村舞台などで古くから伝承されてきた人形芝居です。西日本の代表的な人形浄瑠璃で味わい深いコンベンションの演出をお手伝いたします。

徳島の伝統文化を体験ください。

◆三味線もちつき



◆三番叟まわし



◆和太鼓



助成制度

徳島県内で開催される中四国規模以上かつ県内の宿泊施設に延べ100泊以上の宿泊を伴うコンベンションに開催資金の助成を行います。

延べ宿泊者数	助成金額		
	全国規模学術会議	その他コンベンション	国際会議
100～299泊	30万円	20万円	全国規模学術会議の金額に外国人参加者1人当たり1万円を加算(上限200万円)
300～999泊	60万円	40万円	
1,000～1,999泊	120万円	80万円	
2,000～2,999泊	150万円	100万円	
3,000泊以上	240万円	160万円	

その他の助成

その他コンベンション

助成制度対象コンベンションについて延べ300泊以上の宿泊がある場合、次の事業を実施する場合は追加助成いたします。

- ➔ 郷土芸能等アトラクション助成
- ➔ シャトルバス運行助成
- ➔ アフターバスツアー助成

延べ宿泊者数	その他補助額			
	郷土芸能等	シャトルバス運行	アフターバスツアー	限度額
300泊以上	7万円	14万円	14万円	34万円
2,000泊以上	7万円	28万円	28万円	62万円

施設使用に要する経費

助成制度対象コンベンションについて、延べ宿泊者数が1,000泊以上の大会等について徳島県立施設をご利用の場合使用料と同額を助成します。(使用料が無料となります)

※ただし、附属設備の使用料および準備等のために利用する場合の使用料は対象外です。

助成対象要件

- (1) 開催会場および宿泊地が徳島県内であること
- (2) 参加範囲が中四国地域以上であること
- (3) 延べ宿泊者数が100泊以上であること

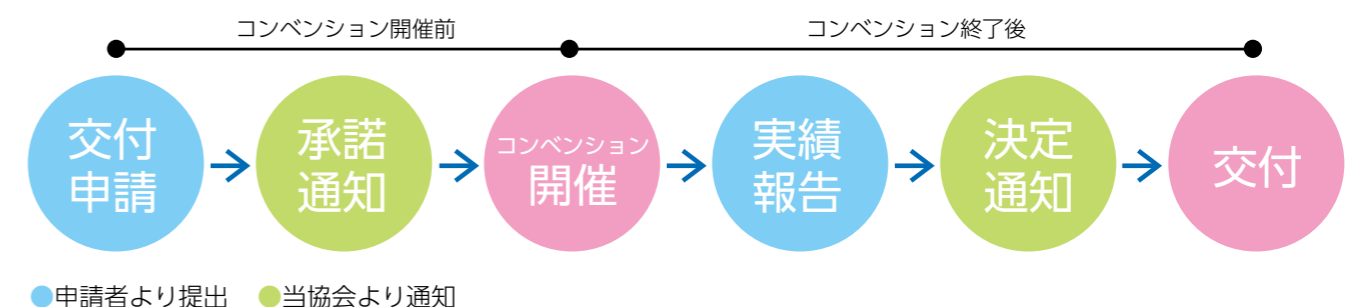
※徳島市外での宿泊の場合は半減します。

※定例行事として徳島開催が定着したもの、全国規模を除く持ち回りで定期開催のものは半減します。

※鳴門市にもコンベンション開催支援助成制度があり、併せて受けることが出来ます。

※助成対象とならない場合がありますので、お問い合わせください。

助成金申請から交付までの流れ





ユニークな レセプション会場

CONVENTION in TOKUSHIMA

様々なニーズにお応えする
徳島ならではの個性豊かな
レセプション会場



大型観潮船「わんだーなると」

鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛264番地の1地先 TEL : 088-687-0101

鳴門海峡の潮流は日本一の速さを誇り、世界においてもイタリアの「メッシーナ海峡」とカナダの「セイモア海峡」と並び、世界三大潮流と言われています。大型観潮船「わんだーなると」は、その大迫力の渦潮に接近してゆき、渦潮の上までみなさまを安全にご案内いたします。大型観潮船(定員399名)ですので、ゆったりしたレセプションクルーズも楽しめます。



m's Happiness

徳島県徳島市津田本町1-4-6 TEL : 088-663-0353

徳島市内には、大小138もの川が流れ、市内中心部はその形から「ひょうたん島」と呼ばれています。周遊船「エムズ・ハピネス」はその周囲の川をクルーズします。開放感あふれるガラス張りの天井は、フルオープンにすることも可能です。心地よい風を受けながらのクルージングは格別です。客席は最大64席まで対応できますので、大人数のパーティーにも安心してご利用いただけます。



檜野倶楽部

徳島県板野郡松茂町広島字北川向四ノ越29-1 TEL : 088-699-1007

檜野倶楽部の主な施設はすべて、江戸・明治・大正に建てられた歴史的建造物を移築・リノベーションしたものです。邸宅を貸し切る贅沢をご提供いたします。また、「本館 檜野邸」は延べ床面積1,000㎡の大邸宅で、バンケットに輝く銜色のシャンデリアや、洋のテーブルセットが似合う貴賓室など、随所に大正モダニズムの優美が薫ります。平成11年に国の登録有形文化財に指定されました。本物だけが持つ輝きで、格調高く彩ります。



THE PACIFIC HARBOR

徳島県徳島市中洲町3-5-1 TEL : 088-626-3939(代表)

ヨットハーバーが目前にあり、ゆったりとした雰囲気海外リゾートを思わせる絶妙なロケーションです。徳島駅から車で5分と、遠方からのゲストをお招きしやすい場所にありながら、ホテルや2次会エリアともアクセスが良いのも大きなメリットです。あらゆるお集まりにご利用いただけ、魅力的なパーティーが可能です。エレガントな雰囲気が漂う会場で、シェフ自慢のお料理とおもてなしをご体験ください。

レセプションに合わせて

システィーナ・ホール(大塚国際美術館)

徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字福池65-1
TEL : 088-687-3737

「大塚国際美術館」は、日本最大級の常設展示スペースを有する「陶板名画美術館」です。館内には、厳選された名画 1,000 余点をオリジナル作品と同じ大きさに、陶板で再現しています。原画を持つ本来の美術的価値を味わうことができ、日本に居ながらにして世界の美術館が体験できます。なかでも原寸大の広大さを実感できるシスティーナ・ホールはこの館の中心的な空間となっています。(特別開館・貸切り利用)



瀬戸内のオーシャンビューを
眼下に望みながら...

自然豊かな瀬戸内海国立公園の景勝地で、爽やかな風を浴びながらのレセプションはいかがでしょう。眼下には青い海が広がり鳴門の潮の香を感じていただけます。少人数から大人数のパーティーまで様々なスタイルでご利用いただけます。

ルネッサンスリゾートナルト

徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛16-45
TEL : 088-687-2580(代表)

鳴門グランドホテル

徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛82-88
TEL : 088-687-1515

レストラン カリフォルニアテーブル

徳島県鳴門市瀬戸町大島田字中山1-1
TEL : 088-688-0212



阿波の地酒めぐり ~地酒でおもてなし~

豊かな自然の宝庫である徳島では、その風土に根ざした地酒が数多くあります。甘・辛・濃・淡と、全国的に見ても多種多様な味わいが揃っています。そんな徳島の地酒が名酒揃いな訳は、剣山山系や阿讃山脈、四国山脈から流れ出た水の美味しさが大きな理由です。一級河川でありながら清流として名高い吉野川や那賀川を中心に、上流から下流まで各所に蔵元が揃っています。この蔵元からお取り寄せした地酒を取りそろえ「阿波の地酒コーナー」を設置することで、様々な名酒でおもてなしいただけます。

徳島県内の 宿泊収容者数

CONVENTION in TOKUSHIMA

宿泊収容者数を
エリアごとに紹介

県西部エリア

【客室数】-----752部屋
【収容定員】-----2,204人

県東部エリア

【客室数】-----5,787部屋
【収容定員】-----12,283人



県南部エリア

【客室数】-----595部屋
【収容定員】-----1,984人



市中心部の コンベンション施設

CONVENTION in TOKUSHIMA

主なコンベンション施設のご紹介

あわぎんホール[徳島県郷土文化会館]



徳島の文化をリードし広範囲の行事、催しに利用できます

JR徳島駅から徒歩で約10分。藍場浜公園や新町川水際公園といった緑地帯に隣接しており、ホテルや徳島のオフィス街、商店街もすぐ近くという立地条件に恵まれています。ホールをはじめ、大小の展示室や会議室、75畳の和室、庭付の茶室などがあり、広範囲の行事や催しにご利用いただけます。

■施設概要

名称	面積(m ²)	天井高(m)	収容人数				備考
			シアター	スクール	ディナー	ピュッフェ	
ホール	1,264	15 (舞台)7	809	---	---	---	
大展示室	370	5	---	---	---	---	
A展示室	378	3.3	---	---	---	---	
B展示室	358	3.3	---	---	---	---	
大会議室	533	7 (舞台)3	500	300	---	---	

【所在地】 徳島市藍場町2丁目14番地

【受付開始日】 12カ月前の1日

【利用時間】 9:00~21:30

【駐車場】 302台(隣接の県営駐車場)

【休館日】 隔月1回の臨時休館日/12月29日~1月3日

【お問い合わせ・ご予約】 TEL/088-622-8121 FAX/088-622-8123

ホテルクレメント徳島



JR徳島駅に連結。様々なコンベンションに対応します

市内の中心に位置し、JR徳島駅と高速バスに直結。県内外からの交通のアクセスも最高。国際会議、レセプション、展示会など幅広くご利用いただける大宴会場をはじめ、目的や人数などすべてに対応可能な中小宴会場を完備。全ての客室とロビー、宴会場などでWi-Fi接続(無線LAN)が可能。その他レストランやショッピングセンターも併設する四国トップクラスの施設です。

■施設概要

名称	面積(m ²)	天井高(m)	収容人数				備考
			シアター	スクール	ディナー	ピュッフェ	
3F 金庫	378	3.0	380	210	180	260	照明音響装置 スクリーン(2分割可)
3F 小宴会場 海空・舞・祝儀	189	2.8	150	100	90	100	照明音響装置 スクリーン(3分割可)
4F クレメントホール	762	6.0	1,000	500	450	800	照明音響装置 スクリーン(3分割可)
5F 小宴会場 格納庫	56/45/48	2.6	---	24	24	---	
6F 和室 茶室	78	2.4	---	---	50	---	2分割可
18F 銀河	142	---	---	---	80	110	
18F ベルビュー	181	---	---	---	104	140	

【所在地】 徳島市寺島町西1丁目61番地

【受付開始日】 随時受付

【利用時間】 9:00~21:00
※但し、お客様のご要望により時間は異なります。

【駐車場】 560台(JR徳島駅駐車場)

【休館日】 年中無休

【お問い合わせ・ご予約】 TEL/088-656-3111代 FAX/088-656-3132

徳島グランヴィリオホテル



観光やビジネスの拠点に、各種コンベンションにご利用ください

徳島の中心部、緑豊かな“水の都”徳島市の中央を流れる新町川のウォーターフロントに位置するホテルです。県庁や市庁舎、各公共施設などが集まる徳島のビジネスゾーンの中心にあり、徳島市のシンボル眉山をはじめとする数々の名所・旧跡などにも近く、観光やビジネスの拠点に、各種コンベンションなどにもご利用いただけます。

■施設概要

名称	面積(m ²)	天井高(m)	収容人数				備考
			シアター	スクール	ディナー	ピュッフェ	
グランヴィリオ ホール	1,074	6.6	1,000	740	600	1,200	分割5室 照明音響装置 スクリーン
ヴィリオリーム	285	3.0	300	160	130	250	分割4室 照明音響装置
福寿	91	3.0	40	30	---	50	
蓬萊	91	3.0	40	30	---	50	

【所在地】 徳島市万代町3-5-1

【受付開始日】 1年前

【利用時間】 9:00~21:00

【駐車場】 200台

【休館日】 年中無休

【お問い合わせ・ご予約】 TEL/088-624-1111 FAX/088-624-2375

徳島県へのアクセス

CONVENTION in TOKUSHIMA



航空便

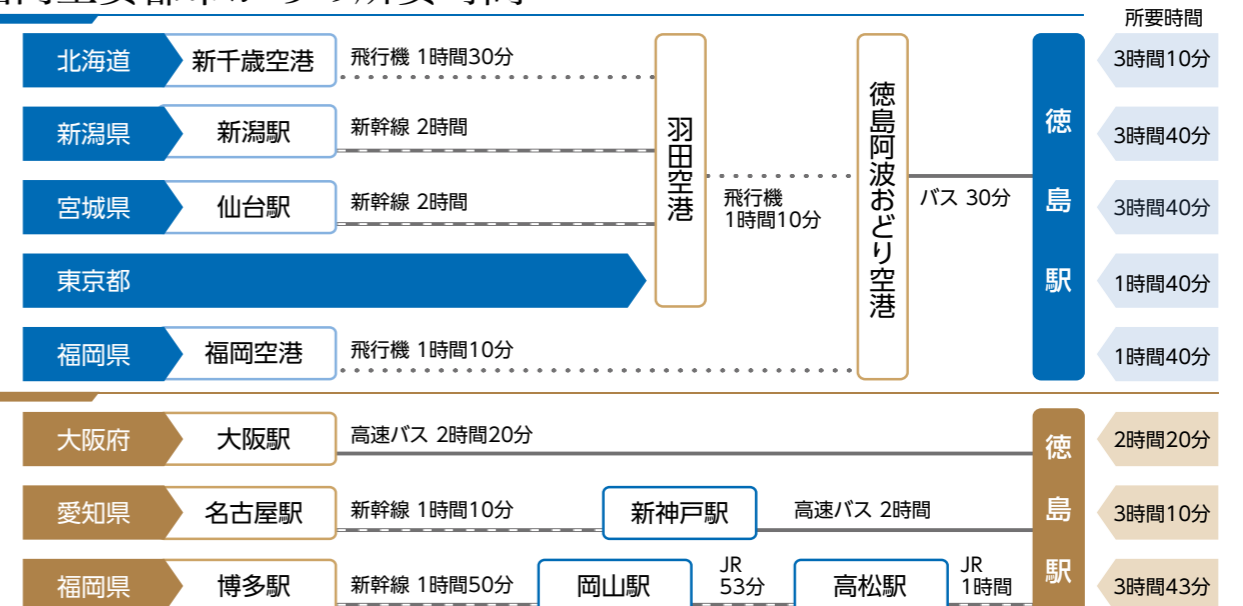
羽田から1日約11便

高速バス

京阪神から1日約100便



国内主要都市からの所要時間





アスティとくしまの 様々な会場レイアウト

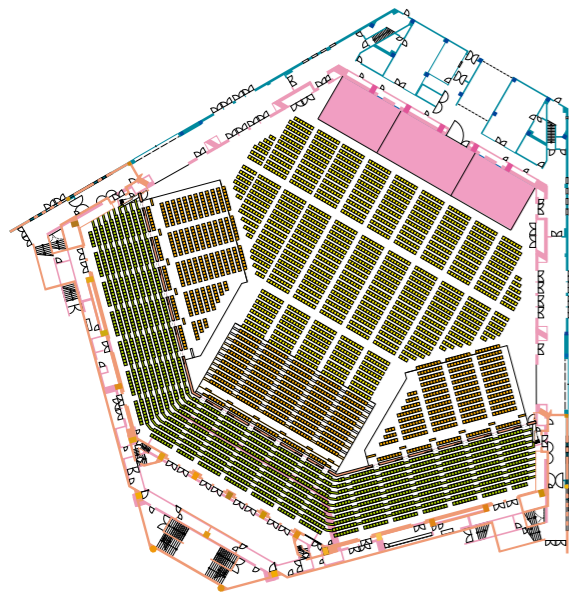
CONVENTION in TOKUSHIMA

あらゆるイベントに
対応できる展開VERSION

Version 1 | キャパシティ5000。人の海に広がる感動の波紋 会議に加え展示会等にも有効活用

5,000席

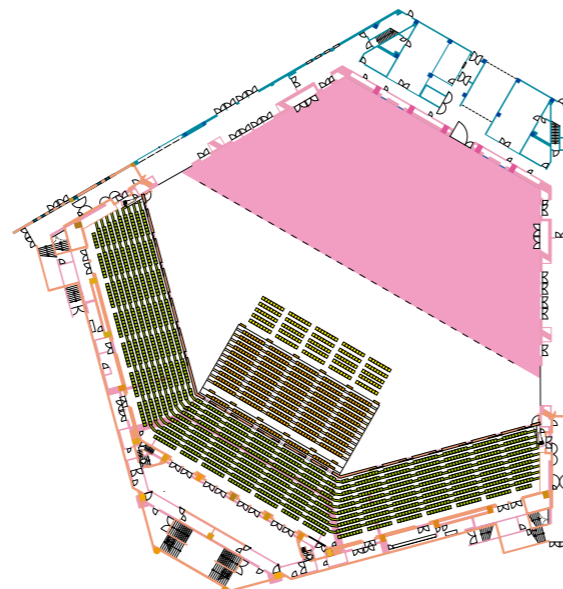
●大規模会議・全国大会等



2,000席

●半分利用した場合

◎仕切りによりポスター展等に利用できます。

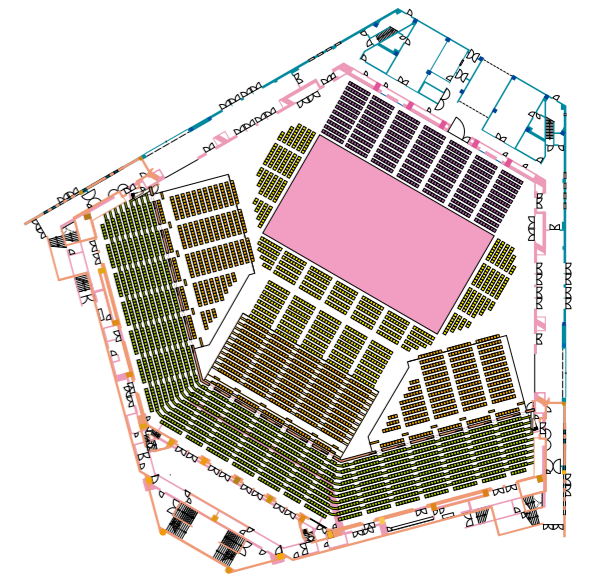


Version 2 | インディア・スポーツ自由自在。コートサイドの迫力を全シートに

●スポーツ大会等

4,000席

- ◎コートを中心に観客席が階段状にセットできるため、スポーツを観戦するのに適した施設です。
- ◎天井の高さが18mあり、バレーボール、テニス等の公式試合が楽しめます。また、大相撲等の開催も可能です。
- ◎熱気あふれる応援席が4,000席確保できます。
- ◎大型映像システムにより、選手の表情のアップ等迫力のあるプレイが楽しめます。
- ◎得点表示板が2箇所があり、試合の流れがよくわかります。

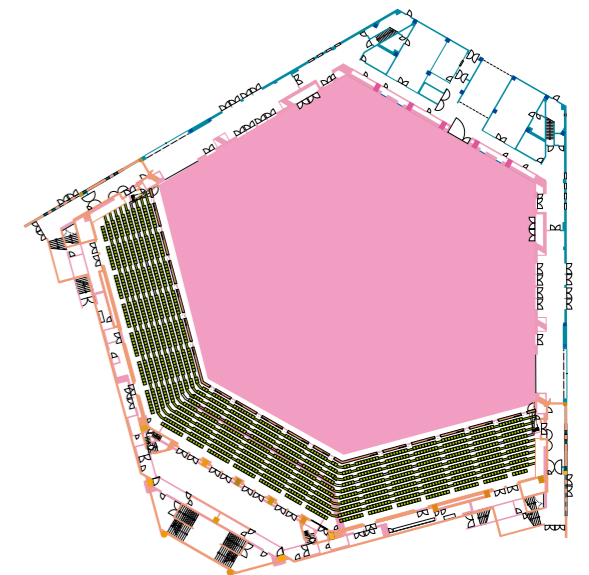


Version 3 | TPOにフィットするレイアウト・フリーのワイドなスペース。

●見本市・展示会等

3,000㎡

- ◎見本市・展示会の場合は3,000㎡のアリーナ全体を使用できます。
- ◎ウレタン樹脂弾性塗の床耐荷重は、5t/㎡（昇降床部分は0.5t/㎡）です。
- ◎電気・電話は壁面4箇所から、また、給排水は、床面18箇所から引き出しができます。また、臨時電話200回線、LAN回線、ガス配管口など見本市、展示会のあらゆる催しに対応いたします。
- ◎搬入搬出については、アリーナの南と北にある、間口6.3m、高さ4.5mの搬出入口2箇所が使えます。また、養生が必要ですが、11tトラックが直接、会場に乗り入れできます。
- ◎商談ルームとして、使用できる会議室が1Fに3室あります。



- ◎最大収容人員5,000人のホールです。
- ◎舞台を間口36m、奥行6.4m、高さ1.2mにセットすれば、シアター形式で最大5,000人収容できるので、大規模な全国大会、学会、総会、研究大会、講演会等の開催が可能です。
- ◎分科会場として使用出来る会議室が8室あります。最大収容人員は、約1,500人です。（スクール形式の場合は、約750人）（大規模会議の場合は他にときわホール（5室220人）もあわせて利用できます。）
- ◎水平可動席等を採用しており、これまでの固定席の会場と異なる演出が可能です。
- ◎昇降式の大型映像設備により、講演者等の細かい表情まで見ることができます。
- ◎空調設備により、ホール・観客席とも冷暖房ができますので快適な会議の運営ができます。
- ◎難聴者用施設として埋め込み式ループアンテナを備えるなど利用者の方に配慮した施設です。

アスティとくしまの 会場施設紹介

CONVENTION in TOKUSHIMA

- 多目的ホール
- 特別会議室
- 会議室
- 特別室
- 多目的広場

全国大会等の大規模会議、
各種のコンサート、スポーツ大会や
見本市・展示会が開催できます。
また国際会議が開催できる
特別会議室をはじめ
各種の会議が開催できる
会議室を併設しています。



人・物・情報の
ベストコミュニケーション



■多目的ホールの主要設備

【名 称】	徳島県立産業観光交流センター
【愛 称】	アスティとくしま
【所 在 地】	徳島市山城町東浜傍示1番地1
【設 置 者】	徳島県
【管 理 者】	(一財)徳島県観光協会
【工 期】	平成3年7月～平成5年9月
【オ ー プ ン】	平成5年10月20日
【総 事 業 費】	約200億円
【2 F 改 修】	平成17年8月～平成18年9月
【面 積】	約5.4ha
【建 物 規 模】	延床面積/約22,000㎡ 最高高さ/28.5m 構 造/鉄筋コンクリート・一部鉄骨造・地上3階一部4階建
【駐 車 場】	約700台(多目的広場を含む)

■アスティとくしまのご利用について

開館(利用)時間

□多目的ホール、控室 / 9:00～21:00

午前【9:00～13:00】 午後【13:00～17:00】 夜間【17:00～21:00】の区間でもご利用になります。なお、連続して使用される場合は、毎月の休館日を変更することも可能ですので係員までご相談ください。

□特別会議室、会議室、特別室 / 9:00～20:00

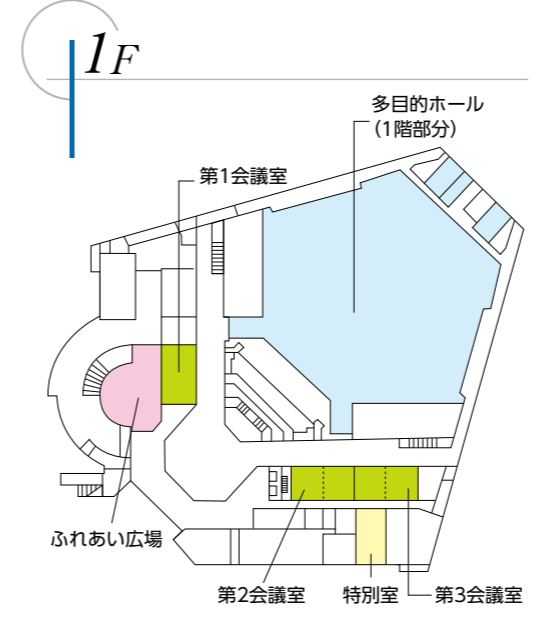
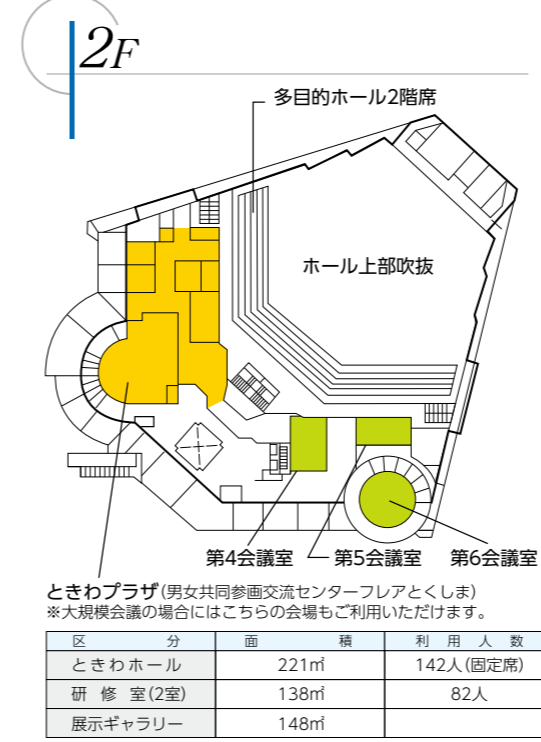
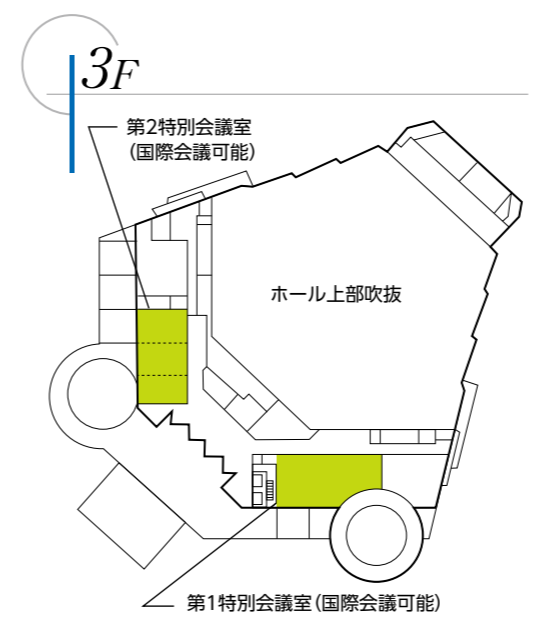
午前【9:00～12:00】 午前【13:00～16:00】 夜間【17:00～20:00】の区間でもご利用になります。なお、連続して使用される場合は、インターバル(12:00～13:00、16:00～17:00)の使用料は不要です。

□多目的広場 / 9:00～17:00

□休 館 日 / 毎月第3火曜日 ※ホール利用の場合は変更可、ご相談ください。

□お問い合わせ、ご予約は

アスティとくしま 〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示1番地1
TEL/(088)-624-5111 FAX/(088)-625-8469



通常10、最大20の分科会に対応できます。



■施設の概要

【第1特別室 [3F]約310㎡】	◎同時通訳室・同時通訳設備(3か国語翻訳)、映像設備あります。 ◎収容人員は約150人です。(シアター形式の場合300人) ◎会議の専用施設です。
【第2特別会議室 [3F]約320㎡】	◎同時通訳室があります。 ◎収容人員は約150人です。(シアター形式の場合300人) ◎約100㎡に3分割が可能です。
【第1会議室 [1F]約160㎡】	◎収容人員は約75人です。(シアター形式の場合150人) ◎約80㎡に2分割が可能です。
【第2会議室 [1F]約150㎡】	◎収容人員は約75人です。(シアター形式の場合150人) ◎約75㎡に2分割が可能です。
【第3会議室 [1F]約150㎡】	◎収容人員は約75人です。(シアター形式の場合150人) ◎約75㎡に2分割が可能です。
【第4会議室 [2F]約160㎡】	◎収容人員は約75人です。(シアター形式の場合150人) ◎約80㎡に2分割が可能です。
【第5会議室 [2F]約170㎡】	◎収容人員は約75人です。(シアター形式の場合150人) ◎約85㎡に2分割が可能です。
【第6会議室 [2F]約180㎡】	◎収容人員は約75人です。(シアター形式の場合150人)
【 特 別 室 】	[1F]約90㎡
【 多 目 的 広 場 】	◎有効面積約3,150㎡(約48.5m×約65m)
【 付 帯 施 設 】	◎エレベーター 2基(25人乗)60m/分 荷物用(25人乗)45m/分



人・街・自然がもてなす 交流の舞台。

水と緑と光あふれる癒しの国・徳島はおもてなしの本場。
コンベンション都市としての機能と、
豊かな「自然」「文化」「食」が調和する
最高のステージです。

CONVENTION in TOKUSHIMA CONTENTS

- 55-54 アスティとくしまの会場施設紹介
- 53-52 アスティとくしまの様々な会場レイアウト
- 51-50 市中心部のコンベンション施設
徳島県へのアクセス
- 49-48 徳島県内の宿泊収容者数
ユニークなレセプション会場
- 47-46 コンベンション開催支援のご案内
- 45-43 食材宝庫徳島のおもてなし美味三昧
- 42 徳島の幸を凝縮したお弁当のいろいろ
- 41-40 心に残る記念品をご用意
- 39-38 ゴルフ場の紹介／産業・体験観光の紹介
- 37-34 おすすめ観光モデルコース
- 33-32 藍の国 漫遊マップ



本誌に掲載されている観光施設等に関するお問い合わせ (一財)徳島県観光協会 ☎088-652-8814



四国三郎吉野川の河口に位置する徳島は水の都、城下町としての歴史と都会的な機能を持ち合わせた街です。県都徳島市の中心には5000人収容の大規模な多目的ホールをはじめ、20施設以上のコンベンション施設、シティホテル・ビジネスホテルの宿泊施設などがコンパクトにまとまっており、多様なコンベンションの展開が可能です。
また、市内には眉山や新町川な



ど、会議の合間や終了後にホッとできる自然空間があり、アフターコンベンションのメニューも充実しています。
さらには徳島が全国に誇れる日本三大秘境西祖谷などの秘境の地など、癒しの環境の中でユニークなコンベンション開催にも応じられます。
徳島県では、主催者様や参加者様に最高のコンベンションステ

ジを提供させていただくために、事前視察や開催費・アフターコンベンションなど全国有数の多様な支援制度を用意しています。
ぜひ、徳島にお越しください。

